

# 数量計算書

令和6年度

(ゼロ債務)横瀬町町道3107号線外配水管布設替工事

秩父広域市町村圏組合水道局

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
管路(補助)						
一般開削工(送配水管)						
管路土工(送配水管)						
舗装版切断工	アスファルト舗装版 t=15cm以下	678.52	680	m	10	
舗装版直接掘削・積込工	As t=10cm以下 0.28BH	236.49	236	m <sup>2</sup>	1	
BH掘削積込	0.28BH	328.49	330	m <sup>3</sup>	10	
管路埋戻費	山砂 0.28BH	175.19	180	m <sup>3</sup>	10	
管路埋戻費	発生土 0.28BH	89.69	90	m <sup>3</sup>	10	
発生土運搬費	DT4t L=9.0Km	238.80	240	m <sup>3</sup>	10	
廃材持込料	発生土	429.84	430	t	1	
As塊運搬工	DT4t L=2.5Km	11.69	12	m <sup>3</sup>	1	
廃材持込料	As廃材	27.42	27	t	1	
濁水処分費	Co・As版切断濁水	1.104	1.104	m <sup>3</sup>	0.001	
Co・As版切断濁水運搬費	DT2t L=32.8Km	1	1	台	1	
路盤工 (国道歩道・As)	路盤(RC-40) t=0.1m	7.38	7	m <sup>2</sup>	1	
下層路盤工 (町道・As車道)	路盤(RC-40) t=0.12m	229.11	229	m <sup>2</sup>	1	
上層路盤工 (町道・As車道)	路盤(M-30) t=0.12cm	229.11	229	m <sup>2</sup>	1	
As舗装工 (町道・As車道)	再生密粒As(13) t=30mm PK-3	236.49	236	m <sup>2</sup>	1	

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
管弁類購入費(送配水管)						
DIP	φ150・φ250	1	1	式		材料集計表のとおり
送配水管布設工						
ダクタイル鋳鉄管布設工	φ150	2.75	2.8	m	0.1	
ダクタイル鋳鉄管布設工	φ250	349.56	349.6	m	0.1	
ダクタイル鋳鉄管接合工	GX継手接合 直管部 φ150	1	1	口	1	
ダクタイル鋳鉄管接合工	GX継手接合 直管部 φ250	69	69	口	1	
ダクタイル鋳鉄管接合工	GX継手接合 異形管部 φ150	2	2	口	1	
ダクタイル鋳鉄管接合工	GX継手接合 異形管部 φ200	1	1	口	1	
ダクタイル鋳鉄管接合工	GX継手接合 異形管部 φ250	24	24	口	1	
ダクタイル鋳鉄管接合工	GX継手接合 G-Link φ150	3	3	口	1	
ダクタイル鋳鉄管接合工	GX継手接合 G-Link φ250	37	37	口	1	
メカニカル継手工(特押)	φ250	1	1	口	1	
フランジ継手工	φ75 7.5K	4	4	口	1	
ダクタイル鋳鉄管切断工	φ150 エンジンカッター	2	2	口	1	
ダクタイル鋳鉄管切断工	φ250 エンジンカッター	33	33	口	1	
鋳鉄製仕切弁設置	機械 φ250	4	4	基	1	
空気弁設置工	φ25	2	2	基	1	
管明示テープ工	ダクタイル鋳鉄管 φ150	2.75	2.8	m	0.1	
管明示テープ工	ダクタイル鋳鉄管 φ250	349.56	349.6	m	0.1	
管明示シート工	W=15cm ダブル	352.31	352.3	m	0.1	

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
<b>コンクリート防護</b>						
基礎工	RC-40 t=15cm	7.01	7	m <sup>2</sup>	1	
型枠工	一般型枠・小型構造物	17.81	18	m <sup>2</sup>	1	
コンクリート工	小型構造物 人力打設 18-8-25	5.01	5	m <sup>3</sup>	1	
<b>コンクリート階段取壊し 復旧工</b>						
構造物取壊し工	無筋構造物・機械施工	1.50	2	m <sup>3</sup>	1	
Co塊運搬工	DT4t L=2.5Km	1.50	2	m <sup>3</sup>	1	
廃材持込料	Co廃材	3.53	4	t	1	
基礎工	RC-40 t=15cm	2.66	3	m <sup>2</sup>	1	
型枠工	一般型枠・小型構造物	3.50	4	m <sup>2</sup>	1	
コンクリート工	小型構造物 人力打設 18-8-25	1.50	2	m <sup>3</sup>	1	
<b>送配水管撤去工</b>						
撤去管吊上げ積み込み工	ダクタイル鋳鉄管 φ 150	66.42	66.4	m	0.1	
撤去管吊上げ積み込み工	ダクタイル鋳鉄管 φ 250	198.99	199.0	m	0.1	
既設撤去管切断工	ダクタイル鋳鉄管 φ 150	12	12	口	1	
既設撤去管切断工	ダクタイル鋳鉄管 φ 250	34	34	口	1	
現場発生品及び支給品運搬	4~4.5t積 2.9t吊 運搬距離5.9km 1 回当り平均積載質量3.10t			回	1	9.3t
スクラップ	へビーH1	9.25	9.3	t	0.1	
<b>弁室築造工(送配水管)</b>						



設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
ねじ式弁きょう設置	仕切弁きょう 座台共	4	4	箇所	1	基礎砕石含
鉄蓋設置	空気弁室 丸型鉄蓋φ600	2	2	個	1	
調整リング設置	空気弁室 φ600×50H	1	1	個	1	
レジン製ボックス設置	空気弁室 円形4号 上部壁H200	2	2	個	1	
レジン製ボックス設置	空気弁室 円形4号 下部壁H300	2	2	個	1	
レジン製ボックス設置	空気弁室 円形4号 底版H40	2	2	個	1	
砕石基礎工	RC-40 t=10cm	2.08	2	m <sup>2</sup>	1	
ねじ式弁筐撤去工	A形1号 受枠30以上60kg未満 蓋30kg未満	3	3	箇所	1	
<b>付帯工</b>						
石積撤去工	構造物取壊し・人力施工	0.22	0.2	m <sup>3</sup>	0.1	
石積設置工	空石積み	0.63	0.6	m <sup>2</sup>	0.1	
防草シート設置工	露出部・平面図 固定ピン・ワッシャー	4.05	4	m <sup>2</sup>	1	
<b>一般開削工(仮設管)</b>						
<b>管路土工(仮設管)</b>						
舗装版切断工	アスファルト舗装版 t=15cm以下	108.80	110	m	10	
舗装版直接掘削・積込工	As t=10cm以下 0.13BH	119.70	120	m <sup>2</sup>	1	
舗装版切断工	コンクリート舗装版 t=15cm以下	0.50	0.5	m	0.1	
舗装版直接掘削・積込工	Co t=10cm以下 0.13BH	0.28	0.3	m <sup>2</sup>	0.1	
BH掘削積込	0.13BH	53.33	50	m <sup>3</sup>	10	
管路埋戻費	発生土 0.13BH	25.75	30	m <sup>3</sup>	10	

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
発生土運搬費	DT2t L=9.0Km	27.58	30	m3	10	
廃材持込料	発生土	49.64	50	t	1	
As塊運搬工	DT2t L=2.5Km	4.79	5	m3	1	
廃材持込料	As廃材	11.26	11	t	1	
Co塊運搬工	DT2t L=2.5Km	0.03	0.1	m3	0.1	
廃材持込料	Co廃材	0.07	0.1	t	0.1	
濁水処分費	アスファルト切断濁水	—	—	m3	1	管路土工(送配水管)へ計上
As切断濁水運搬費	DT2t L=32.8Km	—	—	台	1	管路土工(送配水管)へ計上
路盤工 (宅内・Co)	施工幅1.8m未満 路盤(RC-40) t=0.1m	0.28	0.3	m2	0.1	
下層路盤工 (町道・As車道)	施工幅1.8m未満 路盤(RC-40) t=0.12m	119.70	120	m2	1	
上層路盤工 (町道・As車道)	施工幅1.8m未満 路盤(M-30) t=0.12m	119.70	120	m2	1	
As舗装工 (町道・As車道)	人力 再生密粒As(13) t=30mm PK-3	119.70	120	m2	1	
Co舗装工 (宅地内・Co舗装)	人力 18N/mm2 t=10cm	0.28	0.3	m2	0.1	
<b>管弁類購入費(仮設管)</b>						
PE	φ13・φ20・φ25・φ50	1	1	式		材料集計表のとおり
<b>仮設管布設工</b>						
ポリエチレン管据付工	φ13	8.30	8.3	m	0.1	
ポリエチレン管据付工	φ20	11.10	11.1	m	0.1	
ポリエチレン管据付工	φ25	86.20	86.2	m	0.1	
ポリエチレン管据付工	φ50	134.00	134.0	m	0.1	
メカニカル継手工(特押)	φ150	1	1	口	1	

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
ポリエチレン管継手工	φ13	17	17	口	1	
ポリエチレン管継手工	φ20	17	17	口	1	
ポリエチレン管継手工	φ25	27	27	口	1	
ポリエチレン管継手工	φ50	56	56	口	1	
鋼管継手工	ねじ込み接合 φ13	3	3	口	1	
鋼管継手工	ねじ込み接合 φ50	1	1	口	1	
ポリエチレン管切断	φ13	8	8	口	1	
ポリエチレン管切断	φ20	7	7	口	1	
ポリエチレン管切断	φ25	13	13	口	1	
ポリエチレン管切断	φ50	28	28	口	1	
硬質塩化ビニル管切断工	φ20	3	3	口	1	
硬質塩化ビニル管切断工	φ25	3	3	口	1	
止水栓取付け工	PE用 止水栓のみ φ13	3	3	箇所	1	
止水栓取付け工	PE用 止水栓のみ φ50	1	1	箇所	1	
止水栓取付け工	PE用 接合及び止水栓管取付 φ13	1	1	箇所	1	
止水栓取付け工	PE用 接合及び止水栓管取付 φ20	3	3	箇所	1	
止水栓取付け工	PE用 接合及び止水栓管取付 φ25	4	4	箇所	1	
仮設保温工	ポリエチレンフォーム保温筒 φ13 t=20mm	6.30	6.3	m	0.1	
仮設保温工	ポリエチレンフォーム保温筒 φ25 t=20mm	63.40	63.4	m	0.1	
仮設保温工	ポリエチレンフォーム保温筒 φ50 t=20mm	47.30	47.3	m	0.1	
仮設管撤去工						

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
仮設配管材撤去 ポリエチレン管据付工	φ13mm 配管材を再使用する	8.30	8.3	m	0.1	
仮設配管材撤去 ポリエチレン管据付工	φ20mm 配管材を再使用する	11.10	11.1	m	0.1	
仮設配管材撤去 ポリエチレン管据付工	φ25mm 配管材を再使用する	86.20	86.2	m	0.1	
仮設配管材撤去 ポリエチレン管据付工	φ50mm 配管材を再使用する	134.00	134.0	m	0.1	
仮設配管材撤去 メカニカル継手	φ150mm 割増有 配管材を再使用する	1	1	口	1	
仮設配管材撤去 ポリエチレン管継手工	φ13mm 配管材を再使用する	17	17	口	1	
仮設配管材撤去 ポリエチレン管継手工	φ20mm 配管材を再使用する	17	17	口	1	
仮設配管材撤去 ポリエチレン管継手工	φ25mm 配管材を再使用する	27	27	口	1	
仮設配管材撤去 ポリエチレン管継手工	φ50mm 配管材を再使用する	56	56	口	1	
仮設配管材撤去 鋼管小口径管ねじ込み接合	φ13mm 配管材を再使用する	3	3	口	1	
仮設配管材撤去 鋼管小口径管ねじ込み接合	φ50mm 配管材を再使用する	1	1	口	1	
仮設配管材撤去 止水栓取付(止水栓のみ)	φ13mm PE用	3	3	箇所	1	
仮設配管材撤去 止水栓取付(止水栓のみ)	φ50mm PE用	1	1	箇所	1	
仮設配管材撤去 止水栓取付(接合・筐)	φ13mm PE用	1	1	箇所	1	
仮設配管材撤去 止水栓取付(接合・筐)	φ20mm PE用	3	3	箇所	1	
仮設配管材撤去 止水栓取付(接合・筐)	φ25mm PE用	4	4	箇所	1	
<b>舗装本復旧工(送配水管)</b>						
<b>仮舗装撤去工</b>						
舗装版切断工	アスファルト舗装版 t=15cm以下	612.73	610	m	10	
舗装版直接掘削・積込	As t=10cm以下 0.28BH	667.92	668	m <sup>2</sup>	1	
BH掘削積込	路盤すき取り 0.28BH	5.32	5	m <sup>3</sup>	1	

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数位	備考
発生土運搬費	DT4t L=9.0Km	—	—	m3	1	再利用
廃材持込料	発生土	—	—	t	1	再利用
As塊運搬費	DT4t L=2.5Km	27.84	28	m3	1	
廃材持込料	As廃材	65.36	65	t	1	
濁水処分費		—	—	m <sup>3</sup>	1	管路土工(送配水管)へ計上
As切断濁水運搬費		—	—	台	1	管路土工(送配水管)へ計上
<b>舗装工</b>						
不陸整正	補足材 M-30 t=0.03	667.92	668	m <sup>2</sup>	1	
表層工(国道歩道)	機械 施工幅1.4m以上 再生細粒As(13) t=30mm PK-3	11.77	12	m2	1	
表層工(町道車道)	機械 施工幅1.4m～3.0m以下 再生密粒As(13) t=50mm PK-3	656.15	656	m2	1	
薄層カラー舗装	樹脂モルタル舗装工 厚6mm以下	60.42	60	m2	1	
区画線設置工	溶融式手動 白 実線 W=15cm	256.78	260	m	10	
区画線設置工	溶融式手動 文字・記号・矢印 白 幅15cm換算	9.00	9	m	1	
区画線設置工	溶融式手動 黄 実線 W=15cm	14.70	15	m	1	
<b>指定仮設工</b>						
土留工						
軽量鋼矢板建込工	Ⅱ型 H=2.00m(両側)	73.44	73.4	m	0.1	
軽量鋼矢板建込工	Ⅱ型 H=2.50m(両側)	3.78	3.8	m	0.1	
軽量鋼矢板建込工	Ⅱ型 H=3.00m(両側)	4.94	4.9	m	0.1	
軽量鋼矢板引抜工	Ⅱ型 H=2.00m(両側)	73.44	73.4	m	0.1	
軽量鋼矢板引抜工	Ⅱ型 H=2.50m(両側)	3.78	3.8	m	0.1	

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数位	備考
軽量鋼矢板引抜き	Ⅱ型 H=3.00m(両側)	4.94	4.9	m	0.1	
軽量支保工	設置・撤去 H=2.0m以下 水圧サポート式 支保1段	73.44	73.4	m	0.1	
軽量支保工	設置・撤去 H=3.5m以下 水圧サポート式 支保2段	8.72	8.7	m	0.1	
軽量鋼矢板賃料	H=2.0 共用日数33日 現場使用回数20回	1.00	1.0	式	1	継続工事無し 使用数量 34.81t
軽量鋼矢板賃料	H=2.5 共用日数3日 現場使用回数2回	1.00	1.0	式	1	継続工事無し 使用数量 2.368t
軽量鋼矢板賃料	H=3.0 共用日数4日 現場使用回数2回	1.00	1.0	式	1	継続工事無し 使用数量 3.552t
<b>安全費(補助)</b>						
交通誘導警備員	交通誘導警備員B			人	1	
<b>消火栓(単費)</b>						
<b>一般開削工(消火栓)</b>						
<b>管路土工</b>						
舗装版切断工	アスファルト舗装版 t=15cm以下	2.00	2	m	1	
舗装版直接掘削・積込工	As t=10cm以下 0.28BH	0.65	0.7	m2	0.1	
BH掘削積込	0.28BH	0.87	0.9	m3	0.1	
管路埋戻費	山砂 0.28BH	0.51	0.5	m3	0.1	
管路埋戻費	発生土 0.28BH	0.21	0.2	m3	0.1	
発生土運搬費	DT4t L=9.0Km	0.66	0.7	m3	0.1	
廃材持込料	発生土	1.19	1	t	1	
As塊運搬工	DT4t L=2.5Km	0.03	0.03	m3	0.01	
廃材持込料	As廃材	0.07	0.07	t	0.01	

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
濁水処分費	Co・As版切断濁水	0.005	0.005	m3	0.001	
下層路盤工 (町道・As車道)	施工幅1.8m未満 路盤(RC-40) t=0.12m	0.65	0.7	m2	0.1	
上層路盤工 (町道・As車道)	施工幅1.8m未満 路盤(M-30) t=0.12m	0.65	0.7	m2	0.1	
As舗装工 (町道・As車道)	人力 再生密粒As(13) t=30mm PK-3	0.65	0.7	m2	0.1	
<b>消火栓設置工</b>						
<b>管弁類購入費 (消火栓)</b>						
消火栓	φ75	1	1	式		材料集計表のとおり
<b>消火栓設置工</b>						
鋳鉄管吊込み据付(機械力)	φ250	0.57	0.6	m	0.1	
ダクタイル鋳鉄管接合工	GX継手接合 異形管部 φ250	1	1	口	1	
フランジ継手工	φ75 7.5K	3	3	口	1	
消火栓設置工 地下式 単口	機械施工 φ75	1	1	箇所	1	
<b>消火栓撤去工</b>						
撤去管吊上げ積込み工	ダクタイル鋳鉄管 φ250	0.57	0.6	m	0.1	
管切断工	ダクタイル鋳鉄管 φ250	2	2	口	1	消火栓部
消火栓撤去工	地下式単口消火栓 φ75×65	1	1	箇所	1	
鉄蓋撤去工	φ600×100H 68kg/個	1	1	個	1	
レシコン製ボックス撤去工	消火栓室 円形4号 上部壁H200	1	1	個	1	
レシコン製ボックス撤去工	消火栓室 円形4号 下部壁H300	1	1	個	1	
レシコン製ボックス撤去工	消火栓室 円形4号 底版H40	1	1	個	1	
廃材持込料	Co廃材[無筋]	0.104	0.10	t	0.01	

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
スクラップ	へビーH1 消火栓鉄蓋	0.087	0.09	t	0.01	
<b>弁室築造工(消火栓)</b>						
鉄蓋設置	消火栓 φ 600	1	1	個	1	
調整リング設置	消火栓 φ 600×H50	1	1	個	1	
レジコン製ボックス設置	消火栓 円形4号 上部壁 H200	1	1	個	1	
レジコン製ボックス設置	消火栓 円形4号 下部壁 H300	1	1	個	1	
レジコン製ボックス設置	消火栓 円形4号 底版 H40	1	1	個	1	
基礎砕石	(RC-40) t=10cm	0.8	0.8	m <sup>2</sup>	0.1	
<b>舗装本復旧工(消火栓)</b>						
<b>仮舗装撤去工</b>						
舗装版切断工	アスファルト舗装版 t=15cm以下	2.00	2	m	1	
舗装版直接掘削・積込	As t=10cm以下 0.28BH	1.65	2	m <sup>2</sup>	1	
バックホウ掘削積込	路盤すき取り 0.28BH	0.01	0.01	m <sup>3</sup>	0.01	
発生土運搬費	DT4t L=6.5Km	—	—	m	1	再利用
廃材持込料	発生土	—	—	t	1	再利用
As塊運搬費	DT4t L=2.5Km	0.07	0.07	m <sup>3</sup>	0.01	
廃材持込料	As廃材	0.16	0.2	t	0.1	
濁水処分費		—	—	缶	1	管路土工(消火栓) へ計上
As切断濁水運搬費		—	—	台	1	管路土工(消火栓) へ計上
<b>舗装工</b>						



設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
不陸整正	補足材 M-30 t=0.013m	1.00	1	m <sup>2</sup>	1	
表層工	機械 施工幅1.4m以上 再生密粒As(13) t=50mm PK-3	1.65	2	m <sup>2</sup>	1	
区画線設置工	溶融式手動 文字・記号・矢印 黄 幅15cm換算	14.70	15	m <sup>2</sup>	1	
<b>安全費(消火栓)</b>						
交通誘導警備員	交通誘導警備員B			人	1	
<b>給水管付替工</b>						
<b>一般開削工(給水管)</b>						
<b>管路土工</b>						
舗装版切断工	アスファルト舗装版 t=15cm以下	88.00	88	m	1	
舗装版直接掘削・積込工	As t=10cm以下 0.13BH	24.20	24	m <sup>2</sup>	1	
舗装版切断工	コンクリート舗装版 t=15cm以下	19.40	19	m	1	
舗装版直接掘削・積込工	Co t=10cm以下 0.13BH	5.34	5	m <sup>2</sup>	1	
BH掘削積込	0.13BH	46.24	50	m <sup>3</sup>	10	
管路埋戻費	山砂 0.13BH	23.89	20	m <sup>3</sup>	10	
管路埋戻費	発生土 0.13BH	16.49	20	m <sup>3</sup>	10	
発生土運搬費	DT2t L=9.0Km	29.75	30	m <sup>3</sup>	10	
廃材持込料	発生土	53.55	54	t	1	
As塊運搬工	DT2t L=2.5Km	1.21	1	m <sup>3</sup>	1	
廃材持込料	As廃材	2.84	3	t	1	
Co塊運搬工	DT2t L=2.5Km	0.53	0.5	m <sup>3</sup>	0.1	
廃材持込料	Co廃材	1.25	1	t	1	

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
濁水処分費	Co・As版切断濁水	0.161	0.161	m3	0.001	
Co・As版切断濁水運搬費	DT2t L=32.8Km	1	1	台	1	
路盤工 (宅地内・Co舗装)	施工幅1.8m未満 路盤(RC-40) t=0.1m	5.34	5	m2	1	
下層路盤工 (町道・As車道)	施工幅1.8m未満 路盤(RC-40) t=0.12m	24.20	24	m2	1	
上層路盤工 (町道・As車道)	施工幅1.8m未満 路盤(M-30) t=0.12m	24.20	24	m2	1	
As舗装工 (町道・As車道)	人力 再生密粒As(13) t=30mm PK-3	24.20	24	m2	1	
Co舗装工 (宅地内・Co舗装)	人力 18N/mm2 t=10cm	5.34	5	m2	1	
<b>給水管付替工</b>						
<b>管弁類購入費(給水管)</b>						
ポリエチレン管	φ25, φ20	1	1	式		材料集計表のとおり
<b>給水管付替工</b>						
サドル分水栓建込み	DIP用 φ250×20	11	11	箇所	1	
サドル分水栓建込み	DIP用 φ250×25	3	3	箇所	1	
ポリエチレン管据付工	φ13	13.90	13.9	m	0.1	
ポリエチレン管据付工	φ20	60.50	60.5	m	0.1	
ポリエチレン管据付工	φ25	13.30	13.3	m	0.1	
ポリエチレン管継手工	φ13	5	5	口	1	
ポリエチレン管継手工	φ20	50	50	口	1	
ポリエチレン管継手工	φ25	11	11	口	1	
硬質塩化ビニル管据付工	φ13	9.80	9.8	m	0.1	
硬質塩化ビニル管据付工	φ25	4.50	4.5	m	0.1	

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
硬質塩化ビニル管継手工	φ13 TS	4	4	口	1	
硬質塩化ビニル管継手工	φ16 TS	8	8	口	1	
硬質塩化ビニル管継手工	φ20 TS	1	1	口	1	
硬質塩化ビニル管継手工	φ25 TS	11	11	口	1	
ポリエチレン管切断工	φ13	5	5	口	1	
ポリエチレン管切断工	φ20	25	25	口	1	
ポリエチレン管切断工	φ25	7	7	口	1	
硬質塩化ビニル管切断工	φ13	1	1	口	1	
硬質塩化ビニル管切断工	φ16	8	8	口	1	
硬質塩化ビニル管切断工	φ20	1	1	口	1	
硬質塩化ビニル管切断工	φ25	3	3	口	1	
止水栓取付け工	PP用 筐共 φ20	11	11	箇所	1	
止水栓取付け工	PP用 筐共 φ25	3	3	箇所	1	
管明示シート工	W=15cm ダブル	44.00	44.0	m	0.1	
量水器取付け工	再利用・ねじ込み接合 φ13	4	4	箇所	1	
<b>舗装本復旧工(給水管)</b>						
<b>仮舗装撤去工</b>						
舗装版切断工	アスファルト舗装版 t=15cm以下	88.00	88	m	1	
舗装版直接掘削・積込	As t=10cm以下 0.13BH	68.20	68	m <sup>2</sup>	1	
BH掘削積込	路盤すき取り 0.13BH	0.48	0.5	m <sup>3</sup>	0.1	
発生土運搬費	DT2t L=9.0Km	—	—	m <sup>3</sup>	1	再利用

設計数量総括表

工種・種別	細別	数量	設計数量	単位	数値	備考
廃材持込料	発生土	—	—	t	1	再利用
As塊運搬費	DT2t L=2.5Km	2.93	3	m3	1	
廃材持込料	As廃材	6.89	7	t	1	
As切断濁水運搬費		—	—	台	1	管路土工(給水管)へ計上
濁水処分費		—	—	m3	1	管路土工(給水管)へ計上
<b>舗装工</b>						
不陸整正	補足材 M-30 t=0.03m	44.00	44	m <sup>2</sup>	1	
表層工	機械 施工幅1.4m以上 再生密粒As(13) t=5cm PK-3	68.20	68	m <sup>2</sup>	1	
区画線設置工	溶融式手動 実線 W=15cm	10.85	11	m	1	
<b>安全費(給水管)</b>						
交通誘導警備員	交通誘導警備員B			人	1	
<b>承諾書受領事務</b>						
承諾書受領事務		14	14	軒	1	
<b>共通仮設費</b>						
<b>運搬費</b>						
仮設材等の運搬	1車1回 往復			t	0.001	共通仮設費計算書より
仮設材等の積み込み・取卸し費	基地積込→現場→基地取卸			t	0.001	共通仮設費計算書より
<b>技術管理費</b>						
通水試験工	中口径 φ100～φ250 中距離 101m～500m			日	0.1	





計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	土工延長 (m)	掘削幅 (m)	土被り (m)	掘削深 (m)	現況 表層厚 (m)	計画 舗装厚 (m)	舗装切断		舗装版取壊		掘削		
									切断長 (m)	濁水 (m3)			掘削高 (m)	管控除 (m2)	掘削量 (m3)
									L2	V1	S1	V2	H1	S2	V3
									L1×2	L2×0.0013	L1×W	S×t1	H-t1	既設管	(W×H1-S2)×L1
1	DIP φ 250	—	62.71	0.65	0.90	1.27	0.05	0.270	125.42	0.163	40.76	2.04	1.22	0.000	49.73
計			62.71						125.42	0.163	40.76	2.04			49.73

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	埋戻(山砂)			埋戻(発生土)		残土処分		舗装 復旧 (m <sup>2</sup> )	土留工		
			埋戻高 (m)	管控除 (m <sup>2</sup> )	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	埋戻高 (m)	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	土砂 (m <sup>3</sup> )	As (m <sup>3</sup> )		h=2.00 (m)	h=2.50 (m)	h=3.00 (m)
			H4	S3	V4	H5	V5	V6					
			H-t2	新設管	(W×H4-S3)×L1	H-t2-H4	L1×W×H5	V3-V5	V2	S1			
1	DIP φ 250	—	0.67	0.057	23.74	0.330	13.45	36.28	2.04	40.76			
計					23.74		13.45	36.28	2.04	40.76	0.00	0.00	0.00

積算条件

現況表層厚 (m)	0.05
計画舗装厚 (m)	0.270
濁水発生量 (t=5cm) m <sup>3</sup> /m	0.0013



計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	土工延長 (m)	掘削幅 (m)	土被り (m)	掘削深 (m)	現況 表層厚 (m)	計画 舗装厚 (m)	舗装切断		舗装版取壊		掘削		
									切断長 (m)	濁水 (m3)			掘削高 (m)	管控除 (m2)	掘削量 (m3)
									L2	V1	S1	V2	H1	S2	V3
									L1×2	L2×0.009	L1×W	S×t1	H-t1	既設管	(W×H1-S2)×L1
2	DIP φ 250	—	6.38	0.80	0.83	1.42	0.40	0.500		0.000		0.00	1.02	0.000	5.21
3	DIP φ 250	—	3.28	0.80	0.60	1.19				0.000		0.00	1.19	0.000	3.12
4	DIP φ 250	—	0.85	0.85	1.94	2.31				0.000		0.00	2.31	0.000	1.67
計			10.51						0.00	0.000	0.00	0.00			10.00

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	埋戻(山砂)			埋戻(発生土)		残土処分		舗装 復旧 (m <sup>2</sup> )	土留工		
			埋戻高 (m)	管控除 (m <sup>2</sup> )	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	埋戻高 (m)	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	土砂 (m <sup>3</sup> )	As (m <sup>3</sup> )		h=2.00 (m)	h=2.50 (m)	h=3.00 (m)
			H4	S3	V4	H5	V5	V6					
			H-t2	新設管	(W×H4-S3)×L1	H-t2-H4	L1×W×H5	V3-V5	V2	S1			
2	DIP φ 250	—	0.92	0.570	1.06	0.000	0.00	5.21	0.00	0.00			
3	DIP φ 250	—	0.92	0.570	0.54	0.270	0.71	2.41	0.00	0.00			
4	DIP φ 250	—	0.67	0.057	0.44	1.640	1.18	0.49	0.00	0.00			0.85
計					2.04		1.89	8.11	0.00	0.00	0.00	0.00	0.85

積算条件

現況表層厚 (m)	0.40
計画舗装厚 (m)	0.500
濁水発生量 (t=cm) m <sup>3</sup> /m	0.009

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	土工延長 (m)	掘削幅 (m)	土被り (m)	掘削深 (m)	現況 表層厚 (m)	計画 舗装厚 (m)	舗装切断		舗装版取壊		掘削		
									切断長 (m)	濁水 (m3)			掘削高 (m)	管控除 (m2)	掘削量 (m3)
									L2	V1	S1	V2	H1	S2	V3
									L1×2	L2×0.00078	L1×W	S×t1	H-t1	既設管	(W×H1-S2)×L1
5	DIP φ 250	—	7.44	0.85	1.20	1.57	0.03	0.130	14.88	0.012	6.32	0.19	1.54	0.000	9.74
6	DIP φ 250	—	1.25	0.85	1.94	2.31	0.03	0.130	2.50	0.002	1.06	0.03	2.28	0.000	2.42
計			8.69						17.38	0.014	7.38	0.22			12.16

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	埋戻(山砂)			埋戻(発生土)		残土処分		舗装 復旧 (m2)	土留工		
			埋戻高 (m)	管控除 (m2)	埋戻量 (m3)	埋戻高 (m)	埋戻量 (m3)	土砂 (m3)	As (m3)		h=2.00 (m)	h=2.50 (m)	h=3.00 (m)
			H4	S3	V4	H5	V5	V6					
			H-t2	新設管	(W×H4-S3)×L1	H-t2-H4	L1×W×H5	V3-V5	V2	S1			
5	DIP φ 250	—	0.67	0.057	3.81	0.770	4.87	4.87	0.19	6.32	7.44		
6	DIP φ 250	—	0.67	0.057	0.64	1.510	1.60	0.82	0.03	1.06			1.25
計					4.45		6.47	5.69	0.22	7.38	7.44	0.00	1.25

積算条件

現況表層厚 (m)	0.03
計画舗装厚 (m)	0.130
濁水発生量 (t=cm) m3/m	0.00078

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	土工延長 (m)	掘削幅 (m)	土被り (m)	掘削深 (m)	現況 表層厚 (m)	計画 舗装厚 (m)	舗装切断		舗装版取壊		掘削		
									切断長 (m)	濁水 (m3)			掘削高 (m)	管控除 (m2)	掘削量 (m3)
									L2	V1	S1	V2	H1	S2	V3
									L1×2	L2×0.0013	L1×W	S×t1	H-t1	既設管	(W×H1-S2)×L1
7	DIP φ 250	—	2.84	0.85	1.94	2.31	0.05	0.270	5.68	0.007	2.41	0.12	2.26	0.000	5.46
9	DIP φ 150	DIP φ 150	2.75	0.55	0.90	1.17	0.05	0.270	5.50	0.007	1.51	0.08	1.12	0.023	1.63
1	DIP φ 250	DIP φ 150	59.89	0.65	0.90	1.27	0.05	0.270	119.78	0.156	38.93	1.95	1.22	0.023	46.12
8	DIP φ 250	DIP φ 150	3.78	0.85	1.90	2.27	0.05	0.270	7.56	0.010	3.21	0.16	2.22	0.023	7.05
10-1	DIP φ 250	DIP φ 250	132.60	0.65	0.90	1.47	0.05	0.270	265.20	0.345	86.19	4.31	1.42	0.057	114.83
10-2	DIP φ 250	DIP φ 250	66.00	0.85	0.90	1.57	0.05	0.270	132.00	0.172	56.10	2.81	1.52	0.057	81.51
計			267.86						535.72	0.697	188.35	9.43			256.60

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	埋戻(山砂)			埋戻(発生土)		残土処分		舗装 復旧 (m <sup>2</sup> )	土留工		
			埋戻高 (m)	管控除 (m <sup>2</sup> )	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	埋戻高 (m)	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	土砂 (m <sup>3</sup> )	Co (m <sup>3</sup> )		h=2.00 (m)	h=2.50 (m)	h=3.00 (m)
			H4	S3	V4	H5	V5	V6					
			H-t2	新設管	(W×H4-S3)×L1	H-t2-H4	L1×W×H5	V3-V5	V2	S1			
7	DIP φ 250	—	0.67	0.057	1.46	1.370	3.31	2.15	0.12	2.41			2.84
9	DIP φ 150	DIP φ 150	0.57	0.023	0.80	0.330	0.50	1.13	0.08	1.51			
1	DIP φ 250	DIP φ 150	0.67	0.057	22.67	0.330	12.85	33.27	1.95	38.93			
8	DIP φ 250	DIP φ 150	0.67	0.057	1.94	1.330	4.27	2.78	0.16	3.21		3.78	
10-1	DIP φ 250	DIP φ 250	0.87	0.057	67.43	0.330	28.44	86.39	4.31	86.19			
10-2	DIP φ 250	DIP φ 250	0.97	0.057	50.66	0.330	18.51	63.00	2.81	56.10	66.00		
計					144.96		67.88	188.72	9.43	188.35	66.00	3.78	2.84

積算条件

現況表層厚 (m)	0.05
計画舗装厚 (m)	0.270
濁水発生量 (t=cm) m <sup>3</sup> /m	0.0013

土工管控除面積 (配水管)

明示テープ  
使用量

管種	口径	算式	数量	単位
铸铁管	φ75	$\pi/4 \times 0.09^2$	0.006	m <sup>2</sup>
铸铁管	φ100	$\pi/4 \times 0.12^2$	0.011	m <sup>2</sup>
铸铁管	φ150	$\pi/4 \times 0.17^2$	0.023	m <sup>2</sup>
铸铁管	φ200	$\pi/4 \times 0.22^2$	0.038	m <sup>2</sup>
铸铁管	φ250	$\pi/4 \times 0.27^2$	0.057	m <sup>2</sup>
铸铁管	φ300	$\pi/4 \times 0.32^2$	0.080	m <sup>2</sup>
ポリエチレン管	φ50	$\pi/4 \times 0.06^2$	0.003	m <sup>2</sup>
ポリエチレン管	φ75	$\pi/4 \times 0.09^2$	0.006	m <sup>2</sup>
ポリエチレン管	φ100	$\pi/4 \times 0.13^2$	0.013	m <sup>2</sup>
ポリエチレン管	φ150	$\pi/4 \times 0.18^2$	0.025	m <sup>2</sup>
ポリエチレン管	φ200	$\pi/4 \times 0.25^2$	0.049	m <sup>2</sup>
塩ビ管	φ50	$\pi/4 \times 0.06^2$	0.003	m <sup>2</sup>
塩ビ管	φ75	$\pi/4 \times 0.09^2$	0.006	m <sup>2</sup>
塩ビ管	φ100	$\pi/4 \times 0.11^2$	0.009	m <sup>2</sup>
塩ビ管	φ150	$\pi/4 \times 0.17^2$	0.023	m <sup>2</sup>
塩ビ管	φ200	$\pi/4 \times 0.22^2$	0.038	m <sup>2</sup>
石綿管	φ50	$\pi/4 \times 0.07^2$	0.004	m <sup>2</sup>
石綿管	φ75	$\pi/4 \times 0.10^2$	0.008	m <sup>2</sup>
石綿管	φ100	$\pi/4 \times 0.12^2$	0.011	m <sup>2</sup>
石綿管	φ150	$\pi/4 \times 0.18^2$	0.025	m <sup>2</sup>
石綿管	φ200	$\pi/4 \times 0.24^2$	0.045	m <sup>2</sup>
鋼管	φ50	$\pi/4 \times 0.06^2$	0.003	m <sup>2</sup>
鋼管	φ75	$\pi/4 \times 0.09^2$	0.006	m <sup>2</sup>
鋼管	φ100	$\pi/4 \times 0.11^2$	0.009	m <sup>2</sup>

係数  
(管1m当たり使用長)

0.3181
0.4241
0.6409
0.8294
1.0179
1.2064
0.2262
0.3393
0.4901
0.6786
0.9425









工 種 : 管弁類購入費 (送配水管)

補助

名 称	規 格	計 算 式	数 量	単 位
<b>配水用ダクタイル鋳鉄管</b>	<b>φ 150mm</b>		1	式
GX受口直管 (切管)	S種 φ 150×5000	別紙 材料集計表 - 1のとおり	1	本
GX形受挿し片落管	φ 200×φ 150	〃	1	個
GX形継ぎ輪	φ 150	〃	1	個
GX形両受短管	φ 150	〃	1	個
GX形接合材料	φ 150	〃	2	個
GX形接合材料	φ 200	〃	1	個
GX形G-Link	φ 150	〃	2	個
GX形ライナ	φ 150	〃	1	個
<b>配水用ダクタイル鋳鉄管</b>	<b>φ 250mm</b>		1	式
GX受口直管	S種 φ 250×5000	別紙 材料集計表 - 2のとおり	49	本
GX受口直管 (切管)	S種 φ 250×5000	〃	20	本
GX形受挿し片落管	φ 250×φ 200	〃	1	個
GX形二受T字管	φ 250×φ 250	〃	1	個
GX形曲管	φ 250×90°	〃	4	個
GX形曲管	φ 250×45°	〃	3	個
GX形曲管	φ 250×22 1/2°	〃	4	個
GX形曲管	φ 250×11 1/4°	〃	8	個
GX形曲管	φ 250×5 5/8°	〃	6	個
GX形両受曲管	φ 250×45°	〃	9	個
GX形両受曲管	φ 250×22 1/2°	〃	2	個
GX形継ぎ輪	φ 250	〃	2	個
GX形フットシール仕切弁受挿し	φ 250	〃	2	個
GX形フットシール仕切弁両受	φ 250	〃	2	個

工 種 : 管弁類購入費 (送配水管)

補助

名 称	規 格	計 算 式	数 量	単 位
GX形接合材料	φ 250	〃	23	個
GX形G-Link	φ 250	〃	37	個
GX形ライナ	φ 250	〃	33	個
K形管帽	特殊押輪 φ 250	〃	1	個
<b>空気弁</b>	<b>φ 25mm</b>		1	式
GX形フランジ付T字管	φ 150 × φ 75	別紙 材料集計表 - 3のとおり	1	個
GX形フランジ付T字管	φ 250 × φ 75	〃	1	個
両フランジ短管	GF × RF 7.5K φ 75 × H150	〃	2	個
ボール式補修弁 (レバー式)	SUS304 GF × RF7.5K φ 75 × H150	〃	2	個
急排気空気弁	SUS304 RF φ 75 × φ 25	〃	2	個
GX形接合材料	φ 250	〃	1	個
GX形G-Link	φ 150	〃	1	個
ダクタイル鋳鉄管 フランジ継手品	φ 75 GF1号がスカート含 M16 × 75 × 4本	〃	6	組
<b>その他</b>				
仕切弁筐 ネジ筐A形	170 × 320 H=510~690	別紙 材料集計表 - 2のとおり	4	個
仕切弁筐座台	320 × 520 H=70	〃	4	個
消火栓・空気弁室用鉄蓋	60型 100 蓋・枠	別紙 材料集計表 - 3のとおり	2	個
消火栓・空気弁室 調整リング 4号	10K	〃	1	個
消火栓・空気弁室 上部壁	60型 200A	〃	2	個
消火栓・空気弁室 下部壁	60型 300C	〃	2	個
消火栓・空気弁室 底板	60型 40S	〃	2	個
鉄蓋変形防止用調整金具	M16 × 150H	〃	2	組
鉄蓋調整部用型枠セット(丸形)	φ 600	〃	1	組





材料集計表 - 2

配水用ダクタイル鋳鉄管 φ 250mm

町道3107号線外

補助

名 称	形状 . 寸法	単位	A線配管詳細図	B線配管詳細図	B線配管詳細図				計	材 料 単体長さ	摘 要 延長
			L=87.43m	L=2.75m	L=263.85m						
GX受口直管	S種 φ 250 × 5000	本	9		40				49	5.00	245.000
GX受口直管(切管)	S種 φ 250 × 5000	本	8		12				20	84.87	84.870
GX形受挿し片落管	φ 250 × φ 200	個			1				1	0.44	0.440
GX形二受T字管	φ 250 × φ 250	個			1				1	0.86	0.860
GX形曲管	φ 250 × 90°	個	4						4	0.85	3.400
GX形曲管	φ 250 × 45°	個	1		2				3	0.57	1.710
GX形曲管	φ 250 × 22 1/2°	個	4						4	0.46	1.840
GX形曲管	φ 250 × 11 1/4°	個	4		4				8	0.41	3.280
GX形曲管	φ 250 × 5 5/8°	個			6				6	0.41	2.460
GX形両受曲管	φ 250 × 45°	個	5		4				9	0.28	2.520
GX形両受曲管	φ 250 × 22 1/2°	個	1		1				2	0.16	0.320
GX形継ぎ輪	φ 250	個	1		1				2	0.25	0.500
GX形ソフトシール仕切弁受挿し	φ 250	個	1		1				2	0.68	1.360
GX形ソフトシール仕切弁両受	φ 250	個			2				2	0.30	0.600
GX形接合材料	φ 250	個	13		10				23		
GX形G-Link	φ 250	個	15		22				37		
GX形ライナ	φ 250	個	8		25				33	0.04	1.320





## 材料集計表 - 3

## 空気弁 φ25mm

## 町道3107号線外

## 補助

名 称	形状 . 寸法	単位	A線配管詳細図	B線配管詳細図	B線配管詳細図					計	材 料 単体長さ	摘 要 延長
			L=87.43m	L=2.75m	L=263.85m							
GX形フランジ付T字管	φ150 × φ75	個		1						1	0.45	0.450
GX形フランジ付T字管	φ250 × φ75	個			1					1	0.47	0.470
両フランジ短管	GF×RF 7.5K φ75 × H150	個		1	1					2		
ボール式補修弁(レバー式)	SUS304 GF×RF7.5K φ75 × H150	個		1	1					2		
急排気空気弁	SUS304 RF φ75 × φ25	個		1	1					2		
GX形接合材料	φ250	個			1					1		
GX形G-Link	φ150	個		1						1		
ダクタイル鋳鉄管 フランジ継手品	φ75 GF1号 ガasket含 M16×75×4本	組		3	3					6		
消火栓・空気弁室用鉄蓋	60型 100 蓋・枠	個		1	1					2		
消火栓・空気弁室 調整リング 4号	10K	個		1						1		
消火栓・空気弁室 上部壁	60型 200A	個		1	1					2		
消火栓・空気弁室 下部壁	60型 300C	個		1	1					2		
消火栓・空気弁室 底板	60型 40S	個		1	1					2		
鉄蓋変形防止用調整金具	M16×150H	組		1	1					2		
鉄蓋調整部用型枠セット(丸形)	φ600	組			1					1		
超早強性無収縮モルタル	25kg	袋		1	1					2		

# 切 管 調 書

配水用ダクタイル鋳鉄管 φ150mm

町道3107号線外

補助

番号	管 切 断 概 略 図   切断口	甲切管 (m)	乙切管1 (m)	乙切管2 (m)	乙切管3 (m)	乙切管4 (m)	残 管 (mm)	切 管 か所数
①		0.80	0.78				3.42	2
合計		1.58					3.42	2

## 残管重量

直 部	=	3.42	m	×	23.73	kg/m	=	81.157	kg
受 口 突 部	=	ヶ所		×	18.80	kg	=		kg
挿 口 突 部	=	ヶ所		×	0.22	kg	=	0.000	kg
合計	=				81.157	kg	=	0.081	t

# 切 管 調 書

配水用ダクタイル鋳鉄管 φ250mm

町道3189号線外

補助

番号	管 切 断 概 略 図   切断口	乙切管1 (m)	乙切管2 (m)	乙切管3 (m)	乙切管4 (m)	乙切管5 (m)	残 管 (mm)	切 管 か所数	
①		1.14	2.90				0.96	2	
②		2.79	1.86				0.35	2	
③		4.26					0.74	1	
④		4.55					0.45	1	
⑤		3.42	1.00				0.58	2	
⑥		1.05	1.19	2.36			0.40	3	
⑦		3.53	0.77				0.70	2	
⑧		3.39	1.15				0.46	2	
⑨		1.72	1.50	1.50			0.28	3	
⑩		3.83					1.17	1	
⑪		3.71	1.13				0.16	2	
⑫		3.87	1.13				0.00	1	
⑬		3.86					1.14	1	
⑭		4.65					0.35	1	
⑮		3.67					1.33	1	
⑯		2.50	2.50				0.00	1	
⑰		1.94	2.43				0.63	2	
⑱		0.95	2.76				1.29	2	
⑲		1.00	3.86				0.14	2	
⑳		1.00					4.00	1	
	合計						84.87	15.13	33

残管重量

直	部	=	15.13	m	×	38.71	kg/m	=	585.682	kg
受口突部		=		ヶ所	×	29.90	kg	=		kg
挿口突部		=	7	ヶ所	×	0.44	kg	=	3.080	kg
合計		=				588.762	kg	=	0.589	t

工 種 : 送配水管布設工

補助

種 別	計 算 式	数 量	単 位
ダクタイル鋳鉄管布設工	呼び径150 (GX) 管心長 2.75 =	2.75	m
	呼び径250 (GX) 管心長 仕切弁長 (ソフトシル) 351.52 - 0.68 × 2 - 0.30 × 2 =	349.56	m
ダクタイル鋳鉄管接合工 (直管部)	直管 呼び径150 (GX継手接合) 直管 切管 1 =	1	口
	直管 呼び径250 (GX継手接合) 直管 切管 49 + 20 =	69	口
ダクタイル鋳鉄管接合工 (異形管部)	異形管 呼び径150 (GX継手接合)	2	口
	異形管 呼び径200 (GX継手接合)	1	口
	異形管 呼び径250 (GX継手接合) (φ250) (空気弁) 23 + 1 =	24	口
ダクタイル鋳鉄管接合工 (G-Link)	G-Linkを用いた異形管 呼び径150 (GX継手) (φ150) (空気弁) 2 + 1 =	3	口
	G-Linkを用いた異形管 呼び径250 (GX継手)	37	口
メカニカル継手工 (特押)	呼び径250	1	口
フランジ継手工	呼び径75 7.5K	4	口
ダクタイル鋳鉄管切断工	呼び径150 切管調書 2 =	2	口
	呼び径250 切管調書 33 =	33	口
鋳鉄製仕切弁設置	呼び径250 機械 受挿し 両受 2 + 2 =	4	基
空気弁設置工	呼び径25 2 =	2	基



工 種 : コンクリート工

補助

種 別	計 算 式	数 量	単 位
コンクリート 防護工			
基礎工	RC-40 t=15cm 図面より	7.01	m <sup>2</sup>
型枠工	小型 図面より	17.81	m <sup>2</sup>
コンクリート工	人力打設 コンクリート18-8-25 図面より (面積) (高さ) 7.945 × 0.70 =	5.56	m <sup>3</sup>
	管除外分 5.56 - ( 7.22 + 2.44 ) × 0.27 <sup>2</sup> × π/4 =	5.01	m <sup>3</sup>
コンクリート 階段取壊し工			
構造物取壊し工 無筋構造物・機械施工	図面より	1.50	m <sup>3</sup>
Co塊運搬工 DT4t L=2.5Km		1.50	m <sup>3</sup>
廃材持込料 Co廃材	1.50 × 2.35 =	3.53	t
基礎工	RC-40 t=15cm 図面より	2.66	m <sup>2</sup>
型枠工	小型 図面より	3.50	m <sup>2</sup>
コンクリート工	人力打設 コンクリート18-8-25 図面より	1.50	m <sup>3</sup>





工 種 : 弁室築造工

補助

種 別	計 算 式	数 量	単 位
ねじ式弁筐設置工 基礎碎石含	A形1号 受枠30以上60kg未満 蓋30kg未満 (新設) 4 =	4	箇所
鉄蓋設置 空気弁室	(新設) 丸型鉄蓋 φ 600 2 =	2	個
調整リング設置 空気弁室	(新設) φ 600×50H 1 =	1	個
レンコン製ボックス設置 空気弁室	(新設) 円形4号 上部壁H200 2 =	2	個
レンコン製ボックス設置 空気弁室	(新設) 円形4号 下部壁H300 2 =	2	個
レンコン製ボックス設置 空気弁室	(新設) 円形4号 底版H40 2 =	2	個
碎石基礎工	RC-40 t=10cm (空気弁) $1.00^2 \times \pi / 4 - 0.093^2 \times \pi / 4 \times 2$ 箇所 (仕切弁) $+ 0.52^2 \times \pi / 4 - 0.32^2 \times \pi / 4 \times 4$ 箇所 =	2.08	m <sup>2</sup>
ねじ式弁筐撤去工	A形1号 受枠30以上60kg未満 蓋30kg未満 (図面より) 3 =	3	箇所



工 種 : 管路土工 (仮設管)

補助

種 別	形状寸法	仮設工 (車道)	仮設工 (宅内)	仮設 撤去工 (車道)						数 量	单 位
<b>管路土工 (送配水管)</b>											
舗装版切断工	アスファルト舗装版 t=15cm以下	108.80		0.00						= 108.80	m
舗装版直接 掘削・積込工	As t=10cm以下 0.13BH	59.85		59.85						= 119.70	m <sup>2</sup>
舗装版切断工	コンクリート舗装版 t=15cm以下		0.50							= 0.50	m
舗装版直接 掘削・積込工	Co t=10cm以下 0.13BH		0.28							= 0.28	m <sup>2</sup>
BH掘削積込	0.13BH	24.78	2.90	25.65						= 53.33	m <sup>3</sup>
管路埋戻費	発生土 0.13BH	11.29	2.84	11.62						= 25.75	m <sup>3</sup>
発生土運搬費	DT2t L=9.0Km	13.49	0.06	14.03						= 27.58	m <sup>3</sup>
廃材持込料	発生土									49.64	t
	1.80t/m <sup>3</sup>	24.28	0.11	25.25						= 49.64	t
As塊運搬工	DT2t L=2.5Km									4.79	m <sup>3</sup>
	車道	2.99		1.80						= 4.79	m <sup>3</sup>
	歩道									= 0.00	m <sup>3</sup>
	計									= 4.79	m <sup>3</sup>
廃材持込料	As廃材									11.26	t
	車道2.35t/m <sup>3</sup>	7.03		4.23						= 11.26	t
	歩道2.15t/m <sup>3</sup>									= 0.00	t
	計									= 11.26	t
Co塊運搬工	DT2t L=2.5Km									0.03	m <sup>3</sup>
	車道		0.03							= 0.03	m <sup>3</sup>
	歩道									= 0.00	m <sup>3</sup>
	計									= 0.03	m <sup>3</sup>



計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	土工延長 (m)	掘削幅 (m)	土被り (m)	掘削深 (m)	現況 表層厚 (m)	計画 舗装厚 (m)	舗装切断		舗装版取壊		掘削		
									切断長 (m)	濁水 (m3)			掘削高 (m)	管控除 (m2)	掘削量 (m3)
									L2	V1	S1	V2	H1	S2	V3
									L1	L2×0.0013	L1×W	S×t1	H-t1	既設管	(W×H1-S2)×L1
11	PPφ50	—	0.50	0.55	1.20	1.36	0.05	0.270	0.50	0.001	0.28	0.01	1.31	0.000	0.36
12	PPφ50	—	108.30	0.55	0.30	0.46	0.05	0.270	108.30	0.141	59.57	2.98	0.41	0.000	24.42
計			108.80						108.80	0.142	59.85	2.99			24.78

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	埋戻(山砂)			埋戻(発生土)		残土処分		舗装 復旧 (m <sup>2</sup> )	土留工		
			埋戻高 (m)	管控除 (m <sup>2</sup> )	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	埋戻高 (m)	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	土砂 (m <sup>3</sup> )	As (m <sup>3</sup> )		h=2.00 (m)	h=2.50(1) (m)	h=2.50(2) (m)
			H4	S3	V4	H5	V5	V6					
			H-t2	新設管	(W×H4-S3)×L1	H-t2-H4	L1×W×H5	V3-V5	V2	S1			
11	PPφ50	—	0.00	0.003	0.00	1.090	0.30	0.06	0.01	0.28			
12	PPφ50	—	0.00	0.003	0.00	0.190	10.99	13.43	2.98	59.57			
計					0.00		11.29	13.49	2.99	59.85	0.00	0.00	0.00

積算条件

現況表層厚 (m)	0.05
計画舗装厚 (m)	0.270
濁水発生量 (t=5cm)	0.0013

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	土工延長 (m)	掘削幅 (m)	土被り (m)	掘削深 (m)	現況 表層厚 (m)	計画 舗装厚 (m)	舗装切断		舗装版取壊		掘削		
									切断長 (m)	濁水 (m3)			掘削高 (m)	管控除 (m2)	掘削量 (m3)
									L2	V1	S1	V2	H1	S2	V3
									L1×2	L2×0.0024	L1×W	S×t1	H-t1	既設管	(W×H1-S2)×L1
13	PPφ50	—	0.50	0.55	0.60	0.76	0.10	0.200	0.50	0.001	0.28	0.03	0.66	0.000	0.18
14	PPφ50	—	2.50	0.55	0.60	0.76	0.00	0.000	0.00	0.000	0.00	0.00	0.76	0.000	1.05
15	PPφ50	—	6.60	0.55	0.30	0.46	0.00	0.000	0.00	0.000	0.00	0.00	0.46	0.000	1.67
計			9.60						0.50	0.001	0.28	0.03			2.90

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	埋戻(山砂)			埋戻(発生土)		残土処分		舗装 復旧 (m <sup>2</sup> )	土留工		
			埋戻高 (m)	管控除 (m <sup>2</sup> )	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	埋戻高 (m)	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	土砂 (m <sup>3</sup> )	Co (m <sup>3</sup> )		h=2.00 (m)	h=2.50(1) (m)	h=2.50(2) (m)
			H4	S3	V4	H5	V5	V6					
			H-t2	新設管	(W×H4-S3)×L1	H-t2-H4	L1×W×H5	V3-V5	V2		S1		
13	PP φ 50	—	0.00	0.003	0.00	0.560	0.15	0.03	0.03	0.28			
14	PP φ 50	—	0.00	0.003	0.00	0.760	1.04	0.01	0.00	0.00			
15	PP φ 50	—	0.00	0.003	0.00	0.460	1.65	0.02	0.00	0.00			
計					0.00		2.84	0.06	0.03	0.28	0.00	0.00	0.00

積算条件

現況表層厚 (m)	0.10
計画舗装厚 (m)	0.200
濁水発生量 (t=cm)	0.0024



計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	土工延長 (m)	掘削幅 (m)	土被り (m)	掘削深 (m)	現況 表層厚 (m)	計画 舗装厚 (m)	舗装切断		舗装版取壊		掘削		
									切断長 (m)	濁水 (m3)			掘削高 (m)	管控除 (m2)	掘削量 (m3)
									L2	V1	S1	V2	H1	S2	V3
									L1×2	L2×0.00078	L1×W	S×t1	H-t1	既設管	(W×H1-S2)×L1
11	—	PPφ50	0.50	0.55	0.00	1.36	0.03	0.270	0.00	0.000	0.28	0.01	1.33	0.003	0.36
12	—	PPφ50	108.30	0.55	0.00	0.46	0.03	0.270	0.00	0.000	59.57	1.79	0.43	0.003	25.29
計			108.80						0.00	0.000	59.85	1.80			25.65

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	埋戻(山砂)			埋戻(発生土)		残土処分		舗装 復旧 (m <sup>2</sup> )	土留工		
			埋戻高 (m)	管控除 (m <sup>2</sup> )	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	埋戻高 (m)	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	土砂 (m <sup>3</sup> )	As (m <sup>3</sup> )		h=2.00 (m)	h=2.50(1) (m)	h=2.50(2) (m)
			H4	S3	V4	H5	V5	V6					
			H-t2	新設管	(W×H4-S3)×L1	H-t2-H4	L1×W×H5	V3-V5	V2	S1			
11	—	PP φ 50	0.00		0.00	1.090	0.30	0.06	0.01	0.28			
12	—	PP φ 50	0.00		0.00	0.190	11.32	13.97	1.79	59.57			
計					0.00		11.62	14.03	1.80	59.85	0.00	0.00	0.00

積算条件

現況表層厚 (m)	0.03
計画舗装厚 (m)	0.270
濁水発生量 (t=cm) m <sup>3</sup> /m	0.00078

工 種 : 管弁類購入費 (仮設管)

補助

名 称	規 格	計 算 式	数 量	単 位
仮設用ポリエチレン管	φ 50mm			
水道用ポリエチレン二層管	φ 13・1種管	別紙 材料集計表 - 4のとおり	8.30	m
水道用ポリエチレン二層管	φ 20・1種管	〃	11.10	m
水道用ポリエチレン二層管	φ 25・1種管	〃	86.20	m
水道用ポリエチレン二層管	φ 50・1種管	〃	134.00	m
3管種兼用カニカル継手 アダプター (オス)	φ 13 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	8	個
3管種兼用カニカル継手 アダプター (オス)	φ 20 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	6	個
3管種兼用カニカル継手 アダプター (オス)	φ 25 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	8	個
3管種兼用カニカル継手 アダプター (オス)	φ 50 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	3	個
3管種兼用カニカル継手 ソケット	φ 13 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	1	個
3管種兼用カニカル継手 ソケット	φ 20 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	3	個
3管種兼用カニカル継手 ソケット	φ 25 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	3	個
3管種兼用カニカル継手 異径ソケット	φ 50×25 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	1	個
3管種兼用カニカル継手 エルボ	φ 20 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	1	個
3管種兼用カニカル継手 エルボ	φ 25 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	4	個
3管種兼用カニカル継手 エルボ	φ 50 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	17	個
3管種兼用カニカル継手 チーズ	φ 25 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	1	個
3管種兼用カニカル継手 異径チーズ	φ 50×13 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	4	個
3管種兼用カニカル継手 異径チーズ	φ 50×20 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	3	個
3管種兼用カニカル継手 異径チーズ	φ 50×25 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	〃	2	個
ポリエチレン管用継手 エンバント	1種管用 60° φ 13mm	〃	3	個
ポリエチレン管用継手 ハイアント	1種管用 φ 25mm	〃	1	個
ボール止水栓(一文字タイプ)	φ 50	〃	1	個
スリース弁 埋設用(青銅製)	ねじ込み φ 13 10K	〃	4	個



## 材料集計表 - 4

## ポリエチレン管 φ13～φ50mm

## 町道3107号線外

## 補助

名 称	形状 . 寸法	単位	仮設管詳細図						計	材 料 単体長さ	摘 要 延 長
			L=134.00m								
水道用ポリエチレン二層管	φ13・1種管	m	8.30						8.30		3回転用
水道用ポリエチレン二層管	φ20・1種管	m	11.10						11.10		3回転用
水道用ポリエチレン二層管	φ25・1種管	m	86.20						86.20		3回転用
水道用ポリエチレン二層管	φ50・1種管	m	134.00						134.00		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 アダプター (オス)	φ13 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	8						8		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 アダプター (オス)	φ20 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	6						6		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 アダプター (オス)	φ25 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	8						8		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 アダプター (オス)	φ50 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	3						3		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 ソケット	φ13 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	1						1		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 ソケット	φ20 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	3						3		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 ソケット	φ25 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	3						3		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 異径ソケット	φ50×25 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	1						1		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 エルボ'	φ20 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	1						1		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 エルボ'	φ25 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	4						4		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 エルボ'	φ50 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	17						17		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 チーズ'	φ25 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	1						1		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 異径チーズ'	φ50×13 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	4						4		3回転用
3管種兼用メカニカル継手 異径チーズ'	φ50×20 砲金製 鋼管×塩ビ管×ポリ管	個	3						3		3回転用



工 種 : 仮設管布設工

補助

種 別	計 算 式	数 量	単位
ポリエチレン管据付工	呼び径13 8.30 =	8.30	m
	呼び径20 11.10 =	11.10	m
	呼び径25 86.20 =	86.20	m
	呼び径50 134.00 =	134.00	m
メニカル継手工(特押)	呼び径150 管帽 1	1	口
ポリエチレン管継手工	呼び径13 3管(アダ) 3管(ツケ) 口数 3管(チース) Peφ60バンド 8 + 1 × 2 + 4 + 3 =	17	口
	呼び径20 3管(アダ) 3管(ツケ) 3管(エルボ) 口数 3管(異径チース) 6 + ( 3 + 1 ) × 2 + 3 =	17	口
	呼び径25 3管(アダ) 3管(異径ツケ) 3管(エルボ) 口数 3管(チース) 8 + 1 + 4 × 2 + 1 3管(異径チース) 3管(ツケ) ハ イ プ エ ント × 3 + 2 + 4 + 1 =	27	口
	呼び径50 3管(アダ) 3管(異径ツケ) 3管(エルボ) 3管(異径チース) 3管(異径チース) 3 + 1 + ( 17 + 4 + 3 3管(異径チース) 口数 + 2 ) × 2 =	56	口
鋼管継手工	呼び径13 ねじ込み接合 Peφ60バンド 3 =	3	口
	呼び径50 ねじ込み接合 管帽(フ ラ グ) 1 =	1	口
ポリエチレン管切断工	呼び径13 給水部 8 =	8	口
	呼び径20 給水部 7 =	7	口

工 種 : 仮設管布設工

補助

種 別	計 算 式	数 量	単位
ポリエチレン管切断工	呼び径25 支管部 給水部 5 + 8 =	13	口
	呼び径50 支管部 28 =	28	口
硬質塩化ビニル管切断工	呼び径20 給水管 3 =	3	口
	呼び径25 給水管 3 =	3	口
止水栓取付け工	呼び径13 PE用 止水栓のみ取付 3 =	3	箇所
	呼び径50 PE用 止水栓のみ取付 1 =	1	箇所
	呼び径13 PE用 接合及び止水栓管取付 1 =	1	箇所
	呼び径20 PE用 接合及び止水栓管取付 3 =	3	箇所
	呼び径25 PE用 接合及び止水栓管取付 4 =	4	箇所
仮設保温工	呼び径13用 ポリエチレンフォーム保温筒 t=20mm 露出部 ⑧2.0+⑫2.1+⑬2.2 6.30 =	6.30	m
	呼び径25用 ポリエチレンフォーム保温筒 t=20mm 露出部 63.4 63.40 =	63.40	m
	呼び径50用 ポリエチレンフォーム保温筒 t=20mm 露出部 6.6+8.3+11.2+20.7+0.5 47.30 =	47.30	m



## 工 種 : 仮設管撤去工

補助

種 別	計 算 式	数 量	単 位
仮設配管材撤去 ポリエチレン管据付工	φ 13mm 配管材を再使用する 8.30	8.30	m
仮設配管材撤去 ポリエチレン管据付工	φ 20mm 配管材を再使用する 11.10	11.10	m
仮設配管材撤去 ポリエチレン管据付工	φ 25mm 配管材を再使用する 86.20	86.20	m
仮設配管材撤去 ポリエチレン管据付工	φ 50mm 配管材を再使用する 134.00	134.00	m
仮設配管材撤去 メカニカル継手	φ 150mm 割増有 配管材を再使用する 1	1	口
仮設配管材撤去 ポリエチレン管継手工	φ 13mm 配管材を再使用する 17	17	口
仮設配管材撤去 ポリエチレン管継手工	φ 20mm 配管材を再使用する 17	17	口
仮設配管材撤去 ポリエチレン管継手工	φ 25mm 配管材を再使用する 27	27	口
仮設配管材撤去 ポリエチレン管継手工	φ 50mm 配管材を再使用する 56	56	口
仮設配管材撤去 鋼管小口径管ねじ込み接合	φ 13mm 配管材を再使用する 3	3	口
仮設配管材撤去 鋼管小口径管ねじ込み接合	φ 50mm 配管材を再使用する 1	1	口
仮設配管材撤去 止水栓取付 (止水栓のみ)	φ 13mm PE用 3	3	箇所
仮設配管材撤去 止水栓取付 (止水栓のみ)	φ 50mm PE用 1	1	箇所
仮設配管材撤去 止水栓取付(接合・筐)	φ 13mm PE用 1	1	箇所
仮設配管材撤去 止水栓取付(接合・筐)	φ 20mm PE用 3	3	箇所

工 種 : 仮設管撤去工

補助

種 別	計 算 式	数 量	単 位
仮設配管材撤去 止水栓取付(接合・筐)	φ 25mm PE用 4	4	箇所

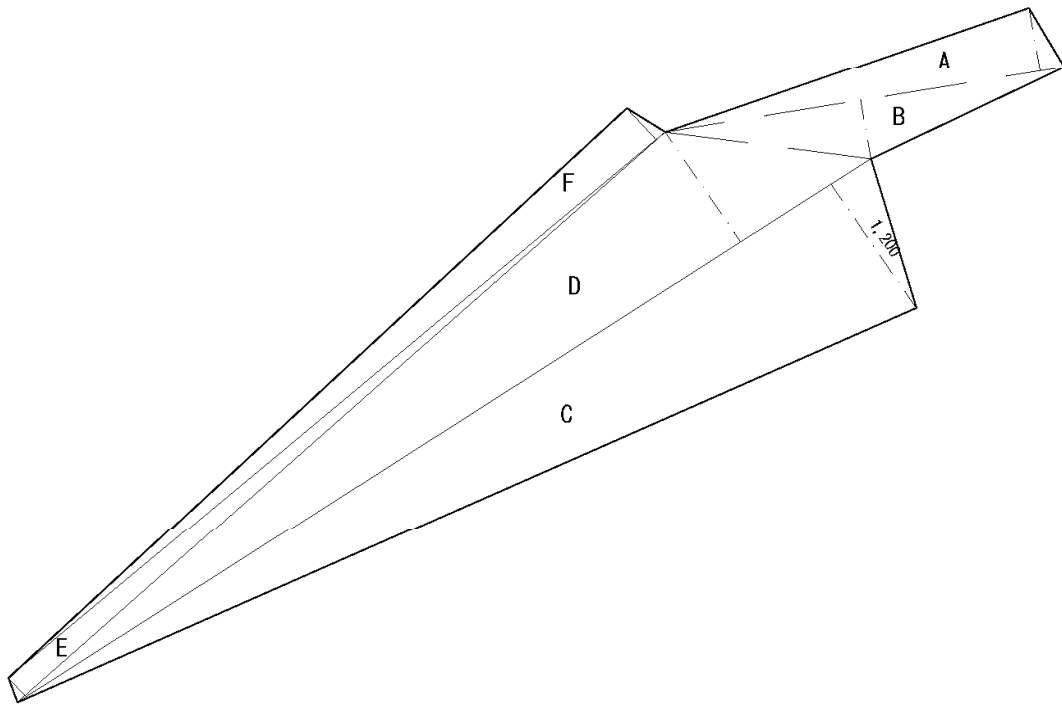
種 別	形状寸法	町道 (車道)	国道 (歩道)							数 量	単 位
<b>仮舗装撤去工</b>											
舗装版切断工	アスファルト舗装版 t=15cm以下	601.36	11.37							= 612.73	m
舗装版直接掘削・積込工	As t=10cm以下 0.28BH	656.15	11.77							= 667.92	m <sup>2</sup>
BH掘削積込	0.28BH	5.32								= 5.32	m <sup>3</sup>
As塊運搬工	DT4t L=2.5Km									27.84	m <sup>3</sup>
	掘削部 車道	8.34								= 8.34	m <sup>3</sup>
	影響部 車道	19.50								= 19.50	m <sup>3</sup>
	計									= 27.84	m <sup>3</sup>
廢材持込料	As廢材									65.36	t
	車道2.35t/m <sup>3</sup>	64.60								= 64.60	t
	歩道2.15t/m <sup>3</sup>		0.76							= 0.76	t
	計									= 65.36	t
濁水処分費	Co・As版切断濁水	0.078	0.009							0.087	= - m <sup>3</sup>
Co・As版切断濁水運搬費	DT2t L=32.8Km									0.087	- 台
<b>舗装工</b>											
不陸整正	補足材M-30 t=0.03	656.15	11.77							667.92	m <sup>2</sup>
表層 (国道歩道As)	施工幅1.4m以上 再生細粒度(13)t=3cm PK-3		11.77							11.77	m <sup>2</sup>
表層 (町道車道As)	施工幅1.4m以上 再生密粒度(13)t=5cm PK-3	656.15								656.15	m <sup>2</sup>
薄層カー舗装	樹脂モルタル舗装工	60.42								60.42	m <sup>2</sup>
区画線工	実線 白 W=15cm	256.78								256.78	m
区画線工	矢印・記号・文字15cm換算	9.00								9.00	m
区画線工	実線 黄 W=15cm	14.70								14.70	m

種 別

計 算 式

数 量 単 位

### 国道歩道本復旧図



本復旧面積計算表

番号	本復旧面積		舗装切断距離	
A	$3.15 \times 0.53 \div 2$	$= 0.835$	0.56	$= 0.56$
B	$3.15 \times 0.48 \div 2$	$= 0.756$	1.68	$= 1.68$
C	$7.95 \times 1.20 \div 2$	$= 4.770$	$1.25 + 7.67$	$= 8.92$
D	$6.82 \times 1.06 \div 2$	$= 3.615$		
E	$6.82 \times 0.19 \div 2$	$= 0.648$	0.21	$= 0.21$
F	$6.74 \times 0.34 \div 2$	$= 1.146$		
計		$= 11.770 \text{ m}^2$		$= 11.37 \text{ m}$

工 種 : 舗装本復旧工(送配水管)

補助

種 別	計 算 式	数 量	単 位
<b>仮舗装撤去工</b>			
舗装版切断 アスファルト舗装版 t=15cm以下	町道部 2本 ( 3.34 + 3.78 + 5.40 + 199.56 + 3.25 + 17.37 + 37.12 ) × 2 =	269.82 539.64	m
	町道部 1本 61.72 × 1	61.72	m
	国道歩道部(国道歩道本復旧区より) (国道歩道) (町道部)2 (町道部)1 11.37 + 539.64 + 61.72 =	<b>612.73</b>	m
舗装版直接掘削・積込 As t=10cm以下 0.28BH	町道部 ( 17.37 + 37.12 + 5.40 + 199.56 ) × 1.65 =	428.09	m <sup>2</sup>
	町道部 ( 61.72 + 3.78 ) × 1.85 + 3.25 × 1.55	126.22	m <sup>2</sup>
	町道部 61.72 × 1.65	101.84	m <sup>2</sup>
	国道歩道部(国道歩道本復旧区より) (国道歩道) (町道部) (町道部) (町道部) 11.77 + 428.09 + 126.22 + 101.84 =	<b>667.92</b>	m <sup>2</sup>
バックホウ掘削積込 0.28BH	掘削部 ( 17.37 + 37.12 + 5.40 + 199.56 ) × 0.65 =	168.64	m <sup>2</sup>
	掘削部 ( 61.72 + 3.78 ) × 0.85 + 3.25 × 0.55 =	57.46	m <sup>2</sup>
	掘削部 61.72 × 0.65 =	40.12	m <sup>2</sup>
	掘削積込(m <sup>2</sup> )合算×H ( 168.64 + 57.46 + 40.12 ) × 0.02 =	<b>5.32</b>	m <sup>3</sup>
発生土運搬費 DT4t L=9.0Km	不陸整生補足材に再利用	=	0.00 m <sup>3</sup>
廃材持込料 発生土	不陸整生補足材に再利用	=	0.00 t
As塊運搬費 DT4 t L=2.5Km	掘削部 ( 17.37 + 37.12 + 5.40 + 199.56 ) × 0.65 =	168.64	m <sup>2</sup>

工 種 : 舗装本復旧工(送配水管)

補助

種 別	計 算 式	数 量	単位
As塊運搬費 DT4 t L=2.5Km	掘削部 $(61.72 + 3.78) \times 0.85$ $+ 3.25 \times 0.55 =$	57.46	m <sup>2</sup>
	掘削部 $61.72 \times 0.65 =$	40.12	m <sup>2</sup>
	国道歩道部(国道歩道本復旧図より) (国道歩道) 掘削部 掘削部 掘削部 $11.77 + 168.64 + 57.46 + 40.12 =$	277.99	m <sup>2</sup>
	As運搬 掘削部(m <sup>2</sup> )合算×H $277.99 \times 0.03 =$	<b>8.34</b>	m <sup>3</sup>
As塊運搬費 DT4 t L=2.5Km	影響部 $(17.37 + 37.12 + 5.40 + 199.56) \times 1.00 =$	259.45	m <sup>2</sup>
	影響部 $(61.72 + 3.78) \times 1.00$ $+ 3.25 \times 1.00 =$	68.75	m <sup>2</sup>
	影響部 $61.72 \times 1.00 =$	61.72	m <sup>2</sup>
	As運搬 影響部(m <sup>2</sup> )合算×H $389.92 \times 0.05 =$	<b>19.50</b>	m <sup>3</sup>
廃材持込料 As廃材	国道歩道部を除く (国道歩道部控除) $8.34 + 19.50 - 11.77 \times 0.03 =$ $27.49 \times 2.35 =$	64.60	t
	国道歩道部 細粒度As $11.77 \times 0.03 \times 2.15 =$	0.76	t
	廃材持込料(t)合算 $64.60 + 0.76 =$	<b>65.36</b>	t
濁水処分費	L 管路土工(送配水管)へ計上 町道 $601.36 \times 0.00013 = 0.078$ 国歩道 $11.37 \times 0.00078 = 0.009$ 0.087 m <sup>3</sup>	—	
Co・As切断濁水運搬費	管路土工(送配水管)へ計上	—	
<b>舗装工</b>			
不陸整正 補足材 M-30 t=0.03m	舗装版直接掘削・積込より $667.92 =$	<b>667.92</b>	m <sup>2</sup>
表層(国道歩道・As) 施工幅1.4m以上 再生細粒度As(13) t=3cm PK-3	国道歩道部(国道歩道本復旧図より) $11.77 =$	<b>11.77</b>	m <sup>2</sup>

工 種 : 舗装本復旧工(送配水管)

補助

種 別	計 算 式	数 量	単 位
表層 (町道・As車道) 施工幅1.4m以上 再生密粒度As(13) t=5cm PK-3	不陸整正より 国道歩道部控除 $667.92 - 11.77 =$	<b>656.15</b>	m <sup>2</sup>
薄層カラー舗装 樹脂モルタル舗装工	図示(図番9) $(1.85 + 199.56) \times 0.3 =$	60.42	m <sup>2</sup>
区画線工 (供用区間) 実線 白 W=15cm	図示(図番9) $1.85 + 3.25 + 15.00 + 37.12 + 199.56 =$	256.78	m
区画線工 (供用区間) 区画線設置 溶融式手動 矢印・記号・文字15cm	図示(図番9) $9.00 =$	9.00	m
区画線工 (供用区間) 実線 黄 W=15cm	図示(図番9) $14.70 =$	14.70	m

工 種 : 指定仮設工(配水管)

種 別	計 算 式	数 量	単位
土留め工			
軽量鋼矢板建込工	山積0.28m <sup>3</sup> 両側 掘削深2.0m以下 A線 + B線 7.44 + 66.00 =	73.44	m
	山積0.28m <sup>3</sup> 両側 掘削深2.5m以下 A線 3.78 =	3.78	m
	山積0.28m <sup>3</sup> 両側 掘削深3.0m以下 A線 4.94 =	4.94	m
軽量鋼矢板引抜工	トラッククレーン4.9t吊 両側 掘削深2.0m以下 A線 + B線 7.44 + 66.00 =	73.44	m
	トラッククレーン4.9t吊 両側 掘削深2.5m以下 A線 3.78 =	3.78	m
	トラッククレーン4.9t吊 両側 掘削深3.0m以下 A線 4.94 =	4.94	m
支保工(軽量金属)	設置・撤去 掘削深2.0m以下 A線 + B線 7.44 + 66.00 =	73.44	m
	設置・撤去 掘削深3.5m以下 A線 + A線 3.78 + 4.94 =	8.72	m
軽量鋼矢板賃料	H=2.0 共用日数 33日 使用数量 34.810 t 現場使用回数 20回	1	式
軽量鋼矢板賃料	H=2.5 共用日数 3日 使用数量 2.368 t 現場使用回数 2回	1	式
軽量鋼矢板賃料	H=3.0 共用日数 4日 使用数量 3.552 t 現場使用回数 2回	1	式





計算 番号	新設管径	既設管径	土工延長	掘削幅	土被り	掘削深	現況 表層厚	計画 舗装厚	舗装切断		舗装版取壊		掘削		
									切断長	濁水			掘削高	管控除	掘削量
	(mm)	(mm)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m)	(m <sup>3</sup> )	(m <sup>2</sup> )	(m <sup>3</sup> )	(m)	(m <sup>2</sup> )	(m <sup>3</sup> )	
			L1	W	DP	H	t1	t2	L2	V1	S1	V2	H1	S2	V3
								L1×2	L2×0.0013	L1×W	S×t1	H-t1	既設管	(W×H1-S2)×L1	
10	DIP φ 250	DIP φ 250	1.00	0.65	0.90	1.47	0.05	0.270	2.00	0.003	0.65	0.03	1.42	0.057	0.87
計			1.00						2.00	0.003	0.65	0.03			0.87

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	埋戻(山砂)			埋戻(発生土)		残土処分		舗装 復旧 (m <sup>2</sup> )	土留工		
			埋戻高 (m)	管控除 (m <sup>2</sup> )	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	埋戻高 (m)	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	土砂 (m <sup>3</sup> )	As (m <sup>3</sup> )		h=2.00 (m)	h=2.50(1) (m)	h=2.50(2) (m)
			H4	S3	V4	H5	V5	V6					
			H-t2	新設管	(W×H4-S3)×L1	H-t2-H4	L1×W×H5	V3-V5	V2	S1			
10	DIP φ 250	DIP φ 250	0.87	0.057	0.51	0.330	0.21	0.66	0.03	0.65			
計					0.51		0.21	0.66	0.03	0.65	0.00	0.00	0.00

積算条件

現況表層厚 (m)	0.05
計画舗装厚 (m)	0.270
濁水発生量 (t=5cm) m <sup>3</sup> /m	0.0013













工 種 : 舗装本復旧工

(消火栓) 単独

種 別	計 算 式	数 量	単 位
<b>仮舗装撤去工</b>			
舗装版切断 アスファルト舗装版 t=15cm以下	L(As道)  1.00 × 2 =	2.00	m
舗装版直接掘削・積込 As t=10cm以下 0.28BH	L(As道) W  1.00 × 1.65 =	1.65	m <sup>2</sup>
路盤すき取り  0.28BH	L(As道) W t  1.00 × 0.65 × 0.02 =	0.01	m <sup>3</sup>
発生土運搬費  DT4t L=9.0Km	不陸整生補足材に再利用	= 0.00	m <sup>3</sup>
廃材持込料  発生土	不陸整生補足材に再利用	= 0.00	t
As塊運搬費  DT4 t L=2.5Km	L(As道) W t 1.00 × 0.65 × 0.03 + 1.00 × 1.00 × 0.05 =	0.07	m <sup>3</sup>
廃材持込料  As廃材	0.07 × 2.35 =	0.16	t
濁水処分費	L 管路土工(消火栓)へ計上  2.00 × 0.00078 = 0.002 m <sup>3</sup>	-	
As切断濁水運搬費	管路土工(消火栓)へ計上	-	
<b>舗装工</b>			
不陸整正  補足材 M-30 t=0.013m	L(As道) W  1.00 × 1.00 =	1.00	m <sup>2</sup>
表層(町道・As車道) 施工幅1.4m以上 再生密粒度As(13) t=5cm PK-3	L(As道) W  1.00 × 1.65 =	1.65	m <sup>2</sup>
区画線設置工	溶解式手動 文字・記号・矢印 黄 幅15cm換算  1.0 + 1.0 + 5.0 + 5.0 + 2.7 =	14.70	m

工 種 : 管路土工 (給水管)

単独

種 別	形状寸法	町道3107号 線(As) (B線)	宅地内 (Co舗装)	宅地内 (土砂)				数 量	単 位
<b>管路土工 (給水管)</b>									
舗装版切断工	アスファルト舗装版 t=15cm以下	88.00						= 88.00	m
舗装版直接 掘削・積込工	As t=10cm以下 0.13BH	24.20						= 24.20	m <sup>2</sup>
舗装版切断工	コンクリート舗装版 t=15cm以下		19.40					= 19.40	m
舗装版直接 掘削・積込工	Co t=10cm以下 0.13BH		5.34					= 5.34	m <sup>2</sup>
BH掘削積込	0.13BH	24.44	3.20	18.60				= 46.24	m <sup>3</sup>
管路埋戻費	山砂 0.13BH	11.13	2.13	10.63				= 23.89	m <sup>3</sup>
管路埋戻費	発生土 0.13BH	7.99	0.53	7.97				= 16.49	m <sup>3</sup>
発生土運搬費	DT2t L=9.0Km	16.45	2.67	10.63				= 29.75	m <sup>3</sup>
廢材持込料	発生土							53.55	t
	1.80t/m <sup>3</sup>	29.61	4.81	19.13				= 53.55	t
As塊運搬工	DT2t L=2.5Km							1.21	m <sup>3</sup>
	車道	1.21						= 1.21	m <sup>3</sup>
	歩道							= 0.00	m <sup>3</sup>
	計							= 1.21	m <sup>3</sup>
廢材持込料	As廢材							2.84	t
	車道2.35t/m <sup>3</sup>	2.84						= 2.84	t
	歩道2.15t/m <sup>3</sup>							= 0.00	t
	計							= 2.84	t
Co塊運搬工	DT2t L=2.5Km							0.53	m <sup>3</sup>
	車道							= 0.00	m <sup>3</sup>
	宅地内		0.53					= 0.53	m <sup>3</sup>
	計							= 0.53	m <sup>3</sup>



計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	土工延長 (m)	掘削幅 (m)	土被り (m)	掘削深 (m)	現況 表層厚 (m)	計画 舗装厚 (m)	舗装切断		舗装版取壊		掘削		
									切断長 (m)	濁水 (m3)			掘削高 (m)	管控除 (m2)	掘削量 (m3)
									L2	V1	S1	V2	H1	S2	V3
									L1×2	L2×0.0013	L1×W	S×t1	H-t1	既設管	(W×H1-S2)×L1
16	PPφ50以下	-	44.00	0.55	0.90	1.06	0.05	0.270	88.00	0.114	24.20	1.21	1.01		24.44
計			44.00						88.00	0.114	24.20	1.21			24.44

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	埋戻(山砂)			埋戻(発生土)		残土処分		舗装 復旧 (m <sup>2</sup> )	土留工		
			埋戻高 (m)	管控除 (m <sup>2</sup> )	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	埋戻高 (m)	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	土砂 (m <sup>3</sup> )	As (m <sup>3</sup> )		h=2.00 (m)	h=2.50(1) (m)	h=2.50(2) (m)
			H4	S3	V4	H5	V5	V6					
			H-t2	新設管	(W×H4-S3)×L1	H-t2-H4	L1×W×H5	V3-V5	V2	S1			
16	PPφ50以下	-	0.46		11.13	0.330	7.99	16.45	1.21	24.20			
計					11.13		7.99	16.45	1.21	24.20	0.00	0.00	0.00

積算条件

現況表層厚 (m)	0.05
計画舗装厚 (m)	0.270
濁水発生量 (t=5cm) m <sup>3</sup> /m	0.0013

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	土工延長 (m)	掘削幅 (m)	土被り (m)	掘削深 (m)	現況 表層厚 (m)	計画 舗装厚 (m)	舗装切断		舗装版取壊		掘削		
									切断長 (m)	濁水 (m3)			掘削高 (m)	管控除 (m2)	掘削量 (m3)
									L2	V1	S1	V2	H1	S2	V3
			L1	W	DP	H	t1	t2	L1×2	L2×0.0024	L1×W	S×t1	H-t1	既設管	(W×H1-S2)×L1
18	PPφ50以下	-	9.70	0.55	0.60	0.70	0.10	0.20	19.40	0.047	5.34	0.53	0.60		3.20
計			9.70						19.40	0.047	5.34	0.53			3.20

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	埋戻(山砂)			埋戻(発生土)		残土処分		舗装 復旧 (m <sup>2</sup> )	土留工		
			埋戻高 (m)	管控除 (m <sup>2</sup> )	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	埋戻高 (m)	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	土砂 (m <sup>3</sup> )	Co (m <sup>3</sup> )		h=2.00 (m)	h=2.50 (m)	h=3.00 (m)
			H4	S3	V4	H5	V5	V6					
			H-t2	新設管	(W×H4-S3)×L1	H-t2-H4	L1×W×H5	V3-V5	V2	S1			
18	PPφ50以下	-	0.40		2.13	0.10	0.53	2.67	0.53	5.34			
計					2.13		0.53	2.67	0.53	5.34	0.00	0.00	0.00

積算条件

現況表層厚 (m)	0.10
計画舗装厚 (m)	0.20
濁水発生量 (t=cm) m <sup>3</sup> /m	0.0024

計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	土工延長 (m)	掘削幅 (m)	土被り (m)	掘削深 (m)	現況 表層厚 (m)	計画 舗装厚 (m)	舗装切断		舗装版取壊		掘削		
									切断長 (m)	濁水 (m3)			掘削高 (m)	管控除 (m2)	掘削量 (m3)
									L2	V1	S1	V2	H1	S2	V3
			L1	W	DP	H	t1	t2	L1×2	L2×0	L1×W	S×t1	H-t1	既設管	(W×H1-S2)×L1
17	PPφ50以下	-	48.30	0.55	0.60	0.70	0.00	0.00	0.00	0.000	0.00	0.00	0.70		18.60
計			48.30						0.00	0.000	0.00	0.00			18.60



計算 番号	新設管径 (mm)	既設管径 (mm)	埋戻(山砂)			埋戻(発生土)		残土処分		舗装 復旧 (m <sup>2</sup> )	土留工		
			埋戻高 (m)	管控除 (m <sup>2</sup> )	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	埋戻高 (m)	埋戻量 (m <sup>3</sup> )	土砂 (m <sup>3</sup> )	As (m <sup>3</sup> )		h=2.00 (m)	h=2.50 (m)	h=3.00 (m)
			H4	S3	V4	H5	V5	V6					
			H-t2	新設管	(W×H4-S3)×L1	H-t2-H4	L1×W×H5	V3-V5	V2	S1			
17	PPφ50以下	-	0.40		10.63	0.30	7.97	10.63	0.00	0.00			
計					10.63		7.97	10.63	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

積算条件

現況表層厚 (m)	0.00
計画舗装厚 (m)	0.00
濁水発生量 (t=cm) m <sup>3</sup> /m	0

工 種 : 給水管布設工  
 種 別 : 管弁類購入費

単独

名 称	規 格	計 算 式	数 量	単 位
給水管材料			1	式
サドル付分水栓(ボール式)	鋳鉄管用 φ250×φ20	別紙 給水管材料集計表6のとおり	11	個
サドル付分水栓(ボール式)	鋳鉄管用 φ250×φ25	"	3	個
水道用ポリエチレン二層管	φ13・1種管	"	13.90	m
水道用ポリエチレン二層管	φ20・1種管	"	60.50	m
水道用ポリエチレン二層管	φ25・1種管	"	13.30	m
HIVP直管	φ13	"	3	本
HIVP直管	φ25	"	2	本
PE継手	φ20・分止水栓用ソケット	"	33	個
PE継手	φ25・分止水栓用ソケット	"	8	個
3管種兼用メカニカル継手	φ13・ソケット	"	1	個
3管種兼用メカニカル継手	φ20・ソケット	"	1	個
3管種兼用メカニカル継手	φ25・ソケット	"	1	個
PE継手	φ13・エルボ	"	1	個
PE継手	φ20・エルボ	"	1	個
PE継手	φ20・キャップ	"	2	個
HIVP-TSソケット	φ13	"	2	個
HIVP-TSソケット	φ25	"	4	個
HIVP-TSキャップ	φ16	"	8	個
HIVP-TSキャップ	φ20	"	1	個
HIVP-TSキャップ	φ25	"	3	個
PE継手	φ13・メーターソケット	"	1	個
PE継手	φ20P×13M・メーターソケット	"	11	個
PE継手	φ25・メーターソケット	"	1	個















## 工 種 : 給水管布設工

単独

種 別	計 算 式	数 量	単 位
ポリエチレン管切断工 φ13	新設管 5	= 5	口
ポリエチレン管切断工 φ20	新設管 25	= 25	口
ポリエチレン管切断工 φ25	新設管 7	= 7	口
硬質塩化ビニル管切断工 φ13	既設管 1	= 1	口
硬質塩化ビニル管切断工 φ16	既設管 8	= 8	口
硬質塩化ビニル管切断工 φ20	既設管 1	= 1	口
硬質塩化ビニル管切断工 φ25	既設管 3	= 3	口
止水栓取付け工 PP用 筐共 φ20	11	= 11	箇所
止水栓取付け工 PP用 筐共 φ25	3	= 3	箇所
管明示シート工 W=15cm ダブル	ポリ管 44.00	= 44.00	m
量水器取付け工 再利用・ねじ込み接合 φ13	4	= 4	箇所

工 種 : 舗装本復旧工(給水管)

単独

種 別	計 算 式	数 量	単 位
<b>仮舗装撤去工</b>			
舗装版切断 アスファルト舗装版 t=15cm以下	L(As道) 44.00 × 2 =	88.00	m
舗装版直接掘削・積込 As t=10cm以下 0.13BH	L(As道) W 44.00 × 1.55 =	68.20	m <sup>2</sup>
BH掘削積込 路盤すき取り 0.13BH	L(As道) W t 44.00 × 0.55 × 0.02 =	0.48	m <sup>3</sup>
発生土運搬費 DT2t L=9.0Km	不陸整生補足材に再利用	= 0.00	m <sup>3</sup>
廃材持込料 発生土	不陸整生補足材に再利用	= 0.00	t
As塊運搬費 DT2 t L=2.5Km	L(As道) W t 44.00 × 0.55 × 0.03 + 44.00 × 1.00 × 0.05 =	2.93	m <sup>3</sup>
廃材持込料 As廃材	2.93 × 2.35 =	6.89	t
<b>舗装工</b>			
不陸整正 補足材 M-30 t=0.03m	L(As道) W 44.00 × 1.00 =	44.00	m <sup>2</sup>
表層 (町道・As車道) 施工幅1.4m以上 再生密粒度As(13) t=50mm PK-3	L(As道) W 44.00 × 1.55 =	68.20	m <sup>2</sup>
区画線工 (供用区間) 実線 W=15cm	W 箇所 1.55 × 7 =	10.85	m



(ゼロ債務)横瀬町町道3107号線外配水管布設替工事

## 仮設材賃料計算書

## 土留材賃料集計表

### 町道部

種別	100m当り					全体分
	矢板	腹起し	切梁	水圧ポンプ	賃料	運搬重量
軽量鋼矢板H=2.0 1段						
軽量鋼矢板H=2.5 2段						
軽量鋼矢板H=3.0 2段						
合計						

軽量鋼矢板賃料算出(100m当り)

軽量鋼矢板(LSP2型) 矢板長2.0m・切梁1段

- ・ 共用日数=矢板使用箇所数×1.7(共用日数割増)

施工延長

100.00 m			計 L =100.00m

日進量	12.00 m
-----	---------

仮定

矢板転用回数	
矢板共用日数	

1口当り重量	12.00(m/口) / 0.25(m/枚) × 2(両面) (枚) × 2.0(m) × 0.0296(t/m)	=	(枚)
		=	(t)
使用回数	=	回	
補正率	1/2 × (n + 1) =		※ n は矢板の使用回数

- ・ 軽量鋼矢板賃料 (1口当り施工延長は12.0mとする。)

$$= (\text{共用1日当り賃料} \times \text{施工供用日数} + 1 \text{現場当り整備費} \times \text{変数} \times \text{補正率}) \times \text{1口当り重量}$$

$$\text{県単} \qquad \qquad \qquad \text{県単}$$

$$= ( \quad \text{円/t} \cdot \text{日} \times \quad \text{日} + \quad \text{円/t} \times 2.75 \times \quad ) \times \quad \text{t} \quad = \quad \underline{\hspace{2cm}} \quad \text{円}$$

- ・ 腹起し材賃料 (4.00m/本であることから、両側で6本とする。)

$$= ( \quad \text{円/本} \times 6 \text{本} \times \quad \text{日} ) + \text{基本料} \quad \text{円/本} \times 6 \text{本} \quad = \quad \underline{\hspace{2cm}} \quad \text{円}$$

- ・ 切梁材賃料 (2本/4.0mであることから、6本使用とする。)

$$= ( \quad \text{円/本} \times 6 \text{本} \times \quad \text{日} ) + \text{基本料} \quad \text{円/本} \times 6 \text{本} \quad = \quad \underline{\hspace{2cm}} \quad \text{円}$$

- ・ 水圧ポンプ

$$= ( \quad \text{円/本} \times 1 \text{台} \times \quad \text{日} ) + \text{基本料} \quad \text{円/本} \times 1 \text{本} \quad = \quad \underline{\hspace{2cm}} \quad \text{円}$$

①軽量鋼矢板賃料算出

軽量鋼矢板(LSP2型) 矢板長2.0m・切梁1段

- ・ 共用日数=矢板使用箇所数×1.7(共用日数割増)

施工延長

73.44 m			計 L =73.44m

日進量	
-----	--

仮定

矢板転用回数	
矢板共用日数	

1口当り重量	$73.44(\text{m}/\text{口}) / 0.25(\text{m}/\text{枚}) \times 2(\text{両面})$ $(\text{枚}) \times 2.0(\text{m}) \times 0.0296(\text{t}/\text{m})$	=	(枚)
使用回数	=	回	
補正率	$1/2 \times (n + 1)$ =		※ n は矢板の使用回数

施工日数の算定 (軽量鋼矢板 H=2.00m)

算定表② 軽量鋼矢板

1ロット 標準延長= 15.00m  
H= 2.00m

施工延長 73.44m  
掘削幅 0.85m

工種	規格	数量	一日当りの 施工量	施工日数 (実日数)
舗装版直接掘削積込	クロー型 山積0.28m <sup>3</sup>	15.00 × 0.85m = 12.75 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	日
機械掘削	クロー型 山積0.28m <sup>3</sup>	全体数量 91.25 ÷ 施工延長 73.44 × 標準延長 15.00 = 18.64 m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	日
建込工	掘削深 2.0m以下	15.00 m	m	日
管布設工	呼び径250mm	15.00 m		日
埋戻工	クロー型 山積0.28m <sup>3</sup>	全体数量 77.85 ÷ 施工延長 73.44 × 標準延長 15.00 = 15.90 m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	日
引抜き工	掘削深 2.0m以下	15.00 m	m	日
計				日

日当り 施工延長	15.00 m ÷ 日 = m/日
実日数	73.44 m ÷ m/日 = 日
供用日数	73.44 m ÷ m/日 × 不稼働日数 1.7 = 日
使用重量	73.44 ÷ 1枚/幅 0.25 × 側 2 = 枚 × 0.0296 t/枚 = t
補正係数	1/2 × 使用回数 + 1) = 73.44 ÷ 施工延長 日当り延長 使用回数 =
運搬重量	t



軽量鋼矢板賃料算出(100m当り)

軽量鋼矢板(LSP2型) 矢板長2.5m・切梁2段

- ・ 共用日数=矢板使用箇所数×1.7(共用日数割増)

施工延長

100.00 m			計 L =100.00m

日進量	12.00 m
-----	---------

仮定

矢板転用回数	
矢板共用日数	

1口当り重量	12.00(m/口) / 0.25(m/枚) × 2(両面) (枚) × 2.5(m) × 0.0296(t/m)	=	(枚)
		=	(t)
使用回数	=	回	
補正率	1/2 × (n + 1)		※ n は矢板の使用回数
	=		

- ・ 軽量鋼矢板賃料 (1口当り施工延長は12.0mとする。)

$$= (\text{共用1日当り賃料} \times \text{施工供用日数} + 1 \text{現場当り整備費} \times \text{変数} \times \text{補正率}) \times \text{1口当り重量}$$

$$\text{県単} \qquad \qquad \qquad \text{県単}$$

$$= ( \quad \text{円/t} \cdot \text{日} \times \quad \text{日} + \quad \text{円/t} \times 2.75 \times \quad ) \times \quad \text{t} \qquad = \quad \underline{\hspace{2cm}} \quad \text{円}$$

- ・ 腹起し材賃料 (4.00m/本であることから、両側で12本とする。)

$$\text{物価資料} \qquad \qquad \qquad \text{物価資料}$$

$$= ( \quad \text{円/本} \times 12 \text{本} \times \quad \text{日} ) + \text{基本料} \quad \text{円/本} \times 12 \text{本} \qquad = \quad \underline{\hspace{2cm}} \quad \text{円}$$

- ・ 切梁材賃料 (2本/4.0mであることから、12本使用とする。)

$$\text{物価資料} \qquad \qquad \qquad \text{物価資料}$$

$$= ( \quad \text{円/本} \times 12 \text{本} \times \quad \text{日} ) + \text{基本料} \quad \text{円/本} \times 12 \text{本} \qquad = \quad \underline{\hspace{2cm}} \quad \text{円}$$

- ・ 水圧ポンプ

$$\text{物価資料} \qquad \qquad \qquad \text{物価資料}$$

$$= ( \quad \text{円/本} \times 1 \text{台} \times \quad \text{日} ) + \text{基本料} \quad \text{円/本} \times 1 \text{本} \qquad = \quad \underline{\hspace{2cm}} \quad \text{円}$$

①軽量鋼矢板賃料算出

軽量鋼矢板(LSP2型) 矢板長2.5m・切梁2段

- ・ 共用日数=矢板使用箇所数×1.7(共用日数割増)

施工延長

3.78 m			計 L = 3.78m

日進量		仮定
-----	--	----

矢板転用回数	
矢板共用日数	

1口当り重量	$3.78(\text{m}/\text{口}) / 0.25(\text{m}/\text{枚}) \times 2(\text{両面})$	=	(枚)
	$(\text{枚}) \times 2.5(\text{m}) \times 0.0296(\text{t}/\text{m})$	=	(t)
使用回数	=	回	
補正率	$1/2 \times (n + 1)$		※ n は矢板の使用回数
	=		

施工日数の算定 (軽量鋼矢板 H=2.50m)

算定表② 軽量鋼矢板

1ロット 標準延長= 3.78m  
H= 2.50m

施工延長 3.78m  
掘削幅 0.85m

工種	規格	数量	一日当りの 施工量	施工日数 (実日数)
舗装版直接掘削積込	クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup>	3.78 × 0.85m = 3.21 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	日
機械掘削	クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup>	全体数量 7.05 ÷ 施工延長 3.78 × 標準延長 3.78 = 7.05 m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	日
建込工	掘削深 2.0m以下	3.78 m	m	日
管布設工	呼び径250mm	3.78 m	m	日
埋戻工	クローラ型 山積0.28m <sup>3</sup>	全体数量 6.21 ÷ 施工延長 3.78 × 標準延長 3.78 = 6.21 m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	日
引抜き工	掘削深 2.0m以下	3.78 m	m	日
計				日

日当り 施工延長	m	日	=	≒	m/日
実日数	m	m/日	=	≒	日
供用日数	m	m/日	× 不稼働日数 1.7	=	≒ 日
使用重量	3.78 ÷	1枚/幅 0.25 ×	側 2	=	枚 × 0.0296 = t
補正係数	1/2 ×	使用回数	+ 1)	=	≒ 3.78 ÷ 日当り延長 = 使用回数
運搬重量	t				

軽量鋼矢板賃料算出(100m当り)

軽量鋼矢板(LSP2型) 矢板長3.0m・切梁2段

- ・ 共用日数=矢板使用箇所数×1.7(共用日数割増)

施工延長

100.00 m			計 L =100.00m

日進量	12.00 m
-----	---------

仮定

矢板転用回数	
矢板共用日数	

1口当り重量	12.00(m/口) / 0.25(m/枚) × 2(両面) (枚) × 3.0(m) × 0.0296(t/m)	=	(枚)
		=	(t)
使用回数	=	回	
補正率	1/2 × (n + 1) =		※ n は矢板の使用回数

- ・ 軽量鋼矢板賃料 (1口当り施工延長は12.0mとする。)

$$= (\text{共用1日当り賃料} \times \text{施工供用日数} + 1 \text{現場当り整備費} \times \text{変数} \times \text{補正率}) \times \text{1口当り重量}$$

$$\text{県単} \qquad \qquad \qquad \text{県単}$$

$$= ( \text{円/t} \cdot \text{日} \times \text{日} + \text{円/t} \times 2.75 \times \text{ )} \times \text{t} = \underline{\hspace{2cm}} \text{円}$$

- ・ 腹起し材賃料 (4.00m/本であることから、両側で12本とする。)

$$= ( \text{円/本} \times 12 \times \text{日} ) + \text{基本料} \text{円/本} \times 12 \text{本} = \underline{\hspace{2cm}} \text{円}$$

- ・ 切梁材賃料 (2本/4.0mであることから、12本使用とする。)

$$= ( \text{円/本} \times 12 \times \text{日} ) + \text{基本料} \text{円/本} \times 12 \text{本} = \underline{\hspace{2cm}} \text{円}$$

- ・ 水圧ポンプ

$$= ( \text{円/本} \times 1 \text{台} \times \text{日} ) + \text{基本料} \text{円/本} \times 1 \text{本} = \underline{\hspace{2cm}} \text{円}$$

①軽量鋼矢板賃料算出

軽量鋼矢板(LSP2型) 矢板長3.0m・切梁2段

- ・ 共用日数=矢板使用箇所数×1.7(共用日数割増)

施工延長

4.94 m			計 L = 4.94 m

日進量	
-----	--

仮定

矢板転用回数	
矢板共用日数	

1口当り重量	$4.94(\text{m}/\text{口}) / 0.25(\text{m}/\text{枚}) \times 2(\text{両面})$	=	(枚)
	$(\text{枚}) \times 3.0(\text{m}) \times 0.0296(\text{t}/\text{m})$	=	(t)
使用回数	=	回	
補正率	$1/2 \times (n + 1)$		※ n は矢板の使用回数
	=		

施工日数の算定 (軽量鋼矢板 H=3.00m)

算定表③ 軽量鋼矢板

1ロット 標準延長=  
H=

4.94m  
3.00m

施工延長  
掘削幅

4.94m  
0.85m

工種	規格	数量	一日当りの 施工量	施工日数 (実日数)
舗装版直接掘削積込	クロー型 山積0.28m <sup>3</sup>	4.94 × 0.85m = 4.20 m <sup>2</sup>	m <sup>2</sup>	日
機械掘削	クロー型 山積0.28m <sup>3</sup>	全体数量 18.18 ÷ 施工延長 4.94 × 標準延長 4.94 = 18.18 m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	日
建込工	掘削深 2.0m以下	4.94 m	m	日
管布設工	呼び径250mm	4.94 m	m	日
埋戻工	クロー型 山積0.28m <sup>3</sup>	全体数量 8.63 ÷ 施工延長 4.94 × 標準延長 4.94 = 8.63 m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	日
引抜き工	掘削深 2.0m以下	4.94 m	m	日
計				1.90 日

日当り 施工延長	m	日	=	≒	m/日
実日数	m	m/日	=	≒	日
供用日数	m	m/日	× 不稼働日数 1.7	=	≒ 日
使用重量	4.94 ÷	1枚/幅 0.25	×	側 2	= 枚 × 0.0296 t/枚 = t
補正係数	1/2	×	使用回数	+ 1)	= 施工延長 4.94 ÷ 日当り延長 = 使用回数
運搬重量	t				